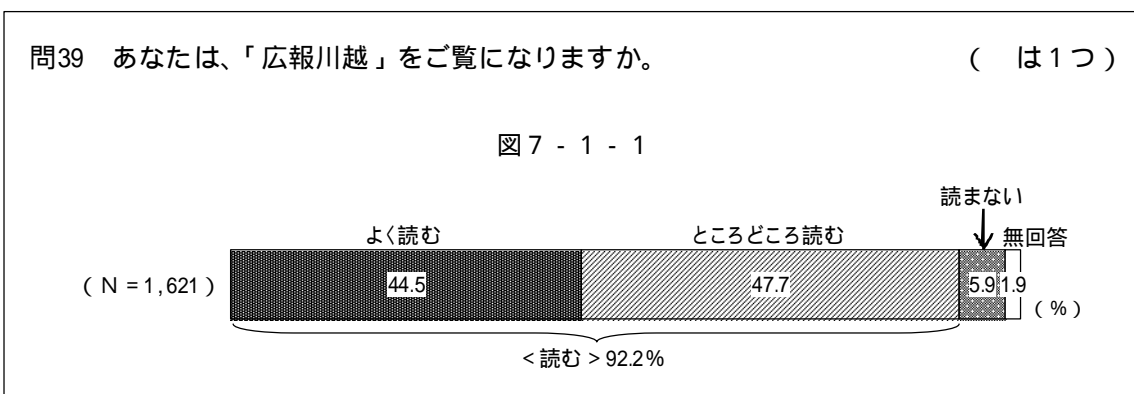


## 7 . 市政全般

### 7 - 1 「広報川越」の閲覧状況

<読む>は92.2%

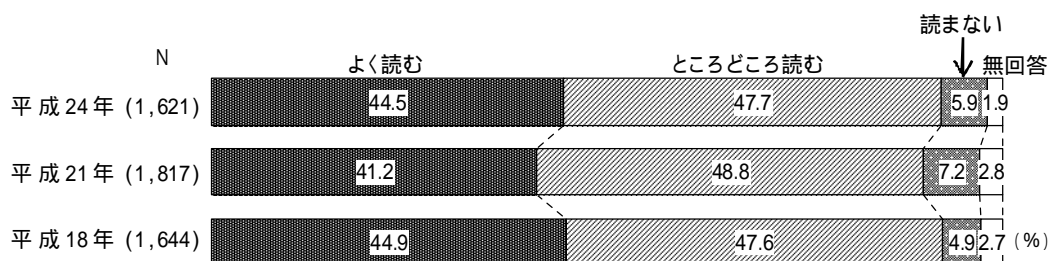


「広報川越」の閲覧状況をたずねたところ、「よく読む」(44.5%)と「ところどころ読む」(47.7%)を合わせた<読む>(92.2%)は90%を超えている。また、「読まない」は5.9%となっている。

(図7 - 1 - 1)

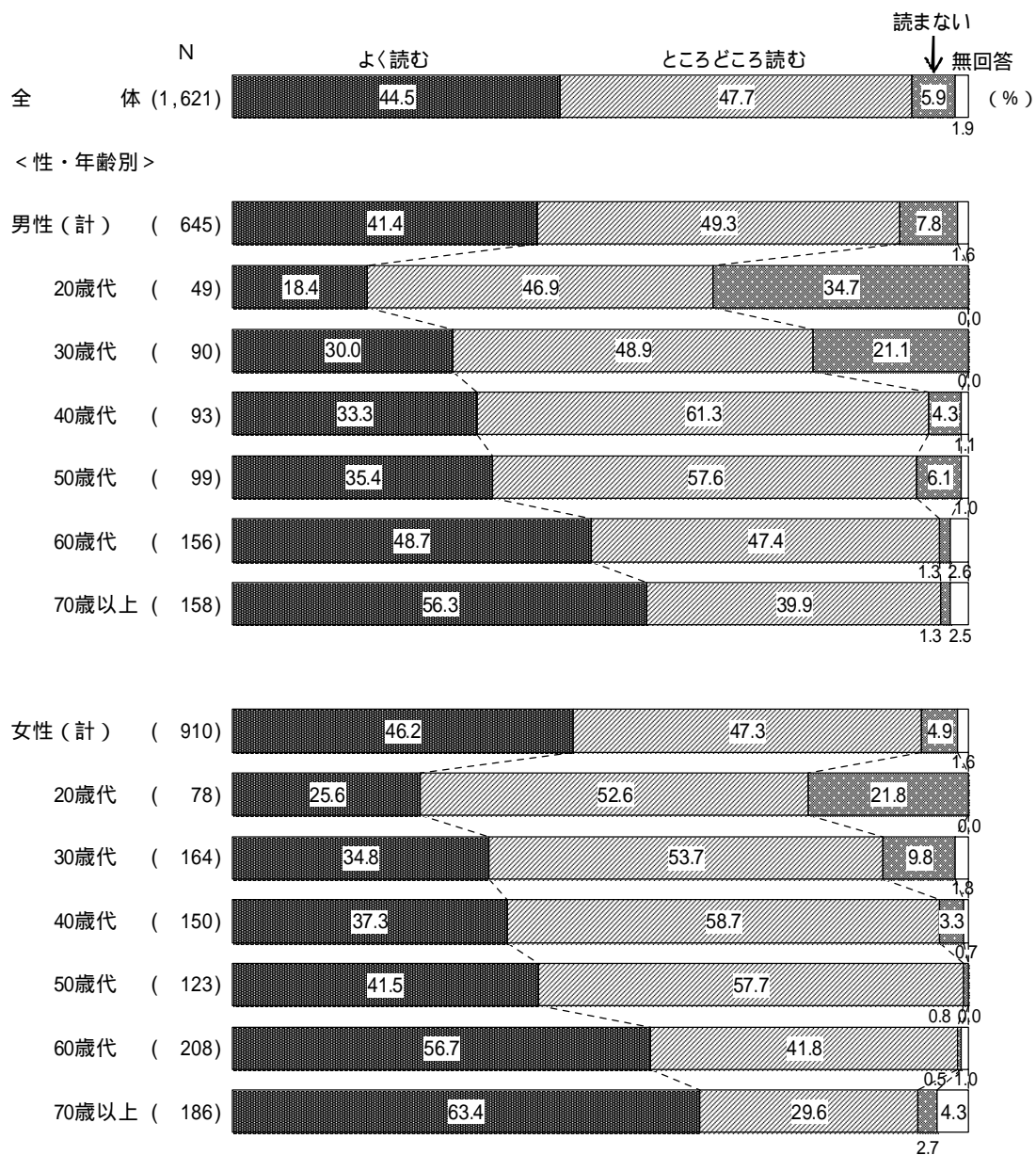
時系列でみると、大きな傾向の違いはみられない。(図7 - 1 - 2)

図7 - 1 - 2 時系列 「広報川越」の閲覧状況



性・年齢別にみると、「よく読む」は高い年代ほど割合が高くなっており、女性70歳以上が60%を超え、男性70歳以上と女性60歳代がともに50%半ばとなっている。「読まない」は男性20歳代が30%半ば、男性30歳代と女性20歳代が20%を超えて多くなっている。(図7-1-3)

図7-1-3 性・年齢別 「広報川越」の閲覧状況

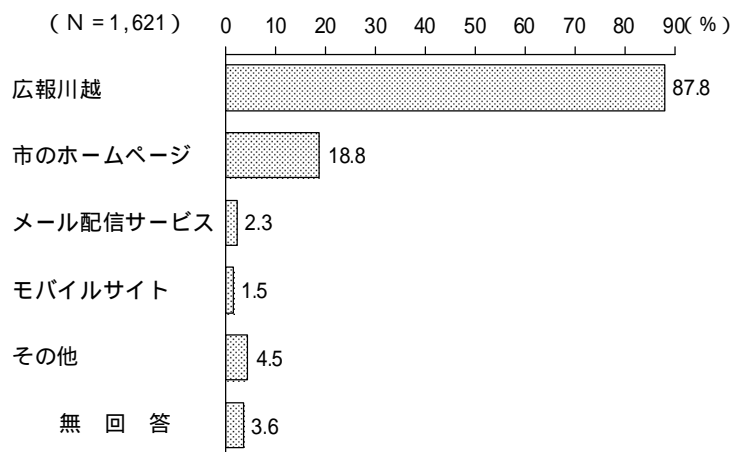


## 7 - 2 市の情報の入手方法

「広報川越」が87.8%

問40 あなたは、市の情報をどのような方法で取得していますか。 (はいくつでも)

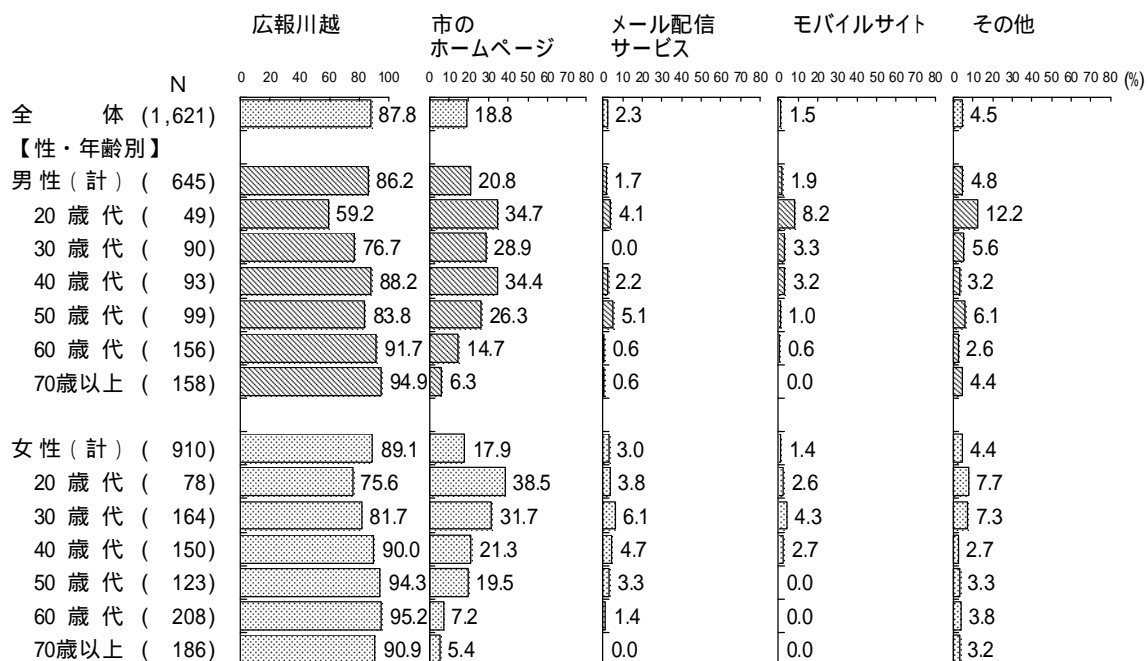
図7 - 2 - 1



市の情報の入手方法をたずねたところ、「広報川越」(87.8%)が最も多く、90%近くとなっている。以下、「市のホームページ」(18.8%)、「メール配信サービス」(2.3%)、「モバイルサイト」(1.5%)の順となっている。(図7 - 2 - 1)

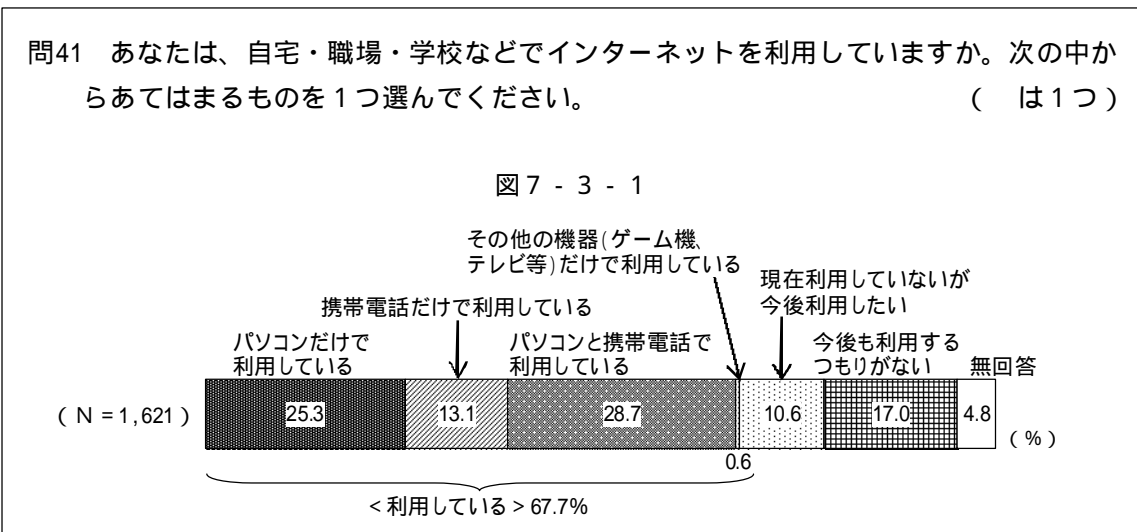
性・年齢別にみると、「広報川越」は男性の60歳代以上、女性の40歳代以上の年代がいずれも90%台となっている。「市のホームページ」は女性20歳代が40%近く、男性20歳代と40歳代が30%半ばで多くなっている。(図7-2-2)

図7-2-2 性・年齢別 市の情報の入手方法



### 7 - 3 インターネット利用状況

<利用している>は67.7%



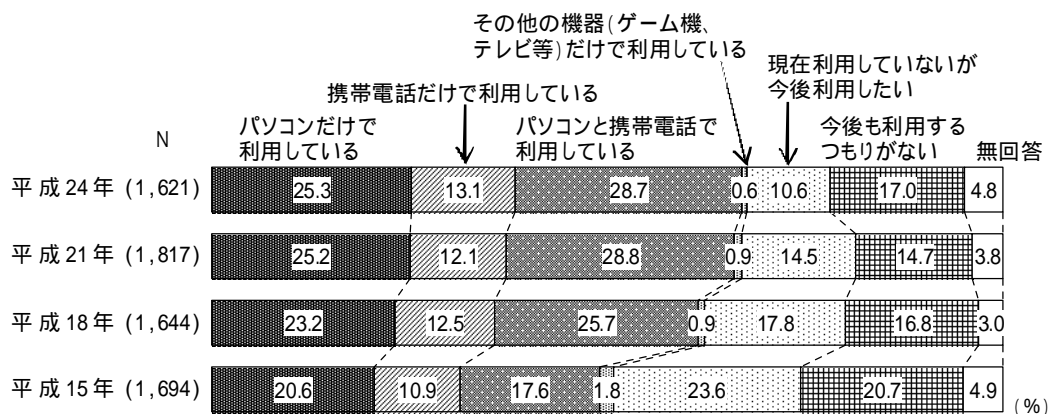
インターネットの利用状況をたずねたところ、「パソコンと携帯電話で利用している」(28.7%)が最も多く、これと「パソコンだけで利用している」(25.3%)、「携帯電話だけで利用している」(13.1%)、「その他の機器(ゲーム機、テレビ等)だけで利用している」(0.6%)を合わせた<利用している>(67.7%)は70%近くとなっている。また、「今後も利用するつもりがない」(17.0%)は20%近くで、「現在利用していないが今後利用したい」(10.6%)は10%を超えている。

(図7-3-1)

時系列でみると、<利用している>の割合は前回調査とほぼ同じ傾向になっている。

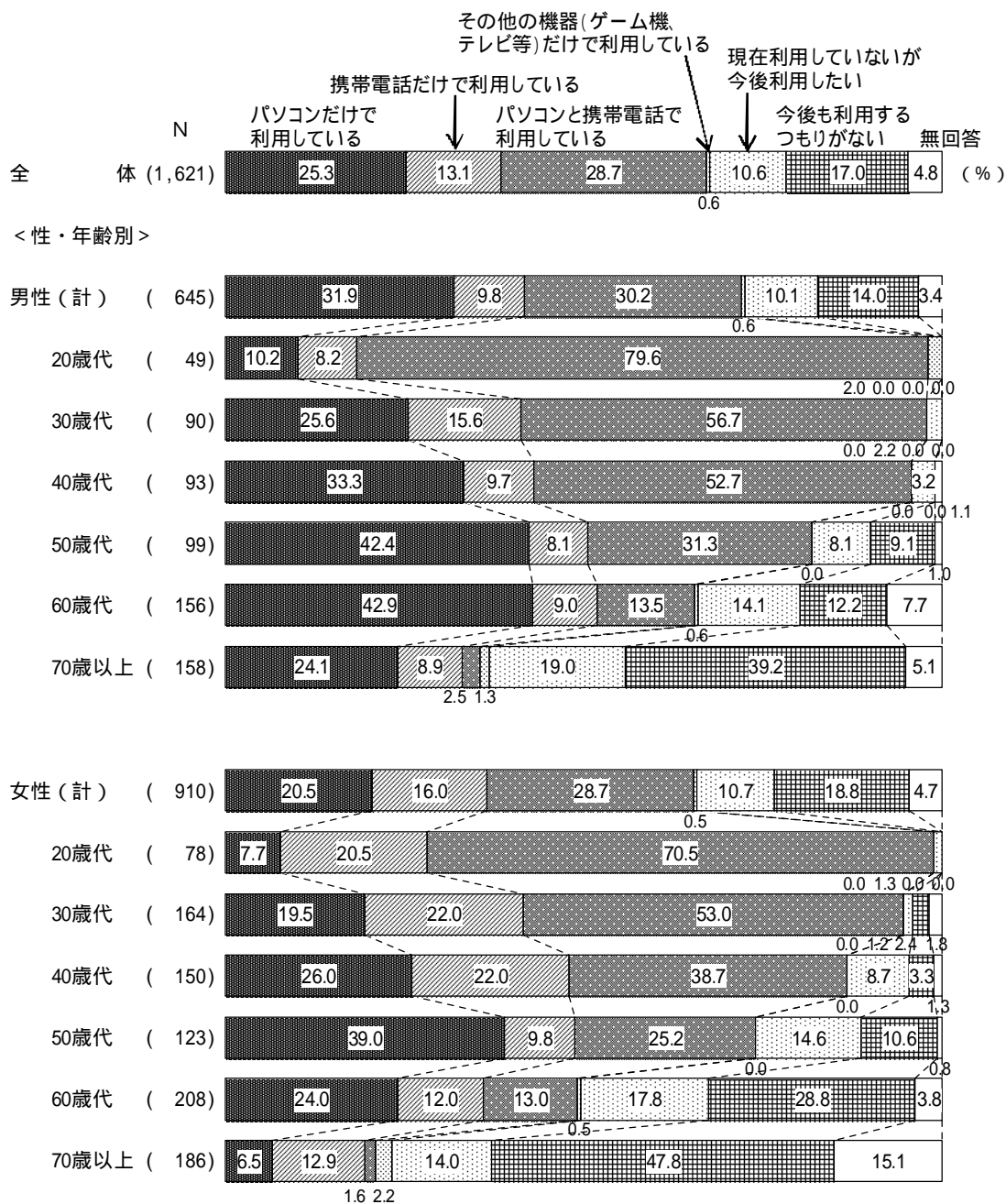
(図7-3-2)

図7-3-2 時系列 インターネット利用状況



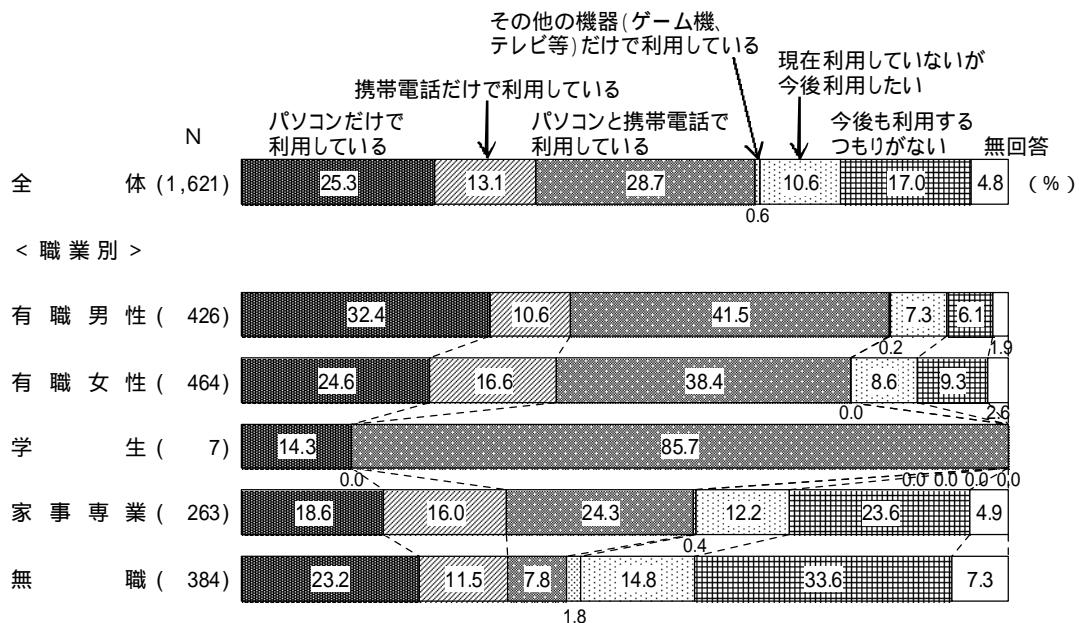
性・年齢別にみると、＜利用している＞は男性の20歳代から40歳代、女性の20歳代と30歳代の年代が90%を超えており、また男性60歳代では60%半ば、女性60歳代では50%近く、男性70歳以上では30%半ば、女性70歳以上では20%を超えている。(図7-3-3)

図7-3-3 性・年齢別 インターネット利用状況



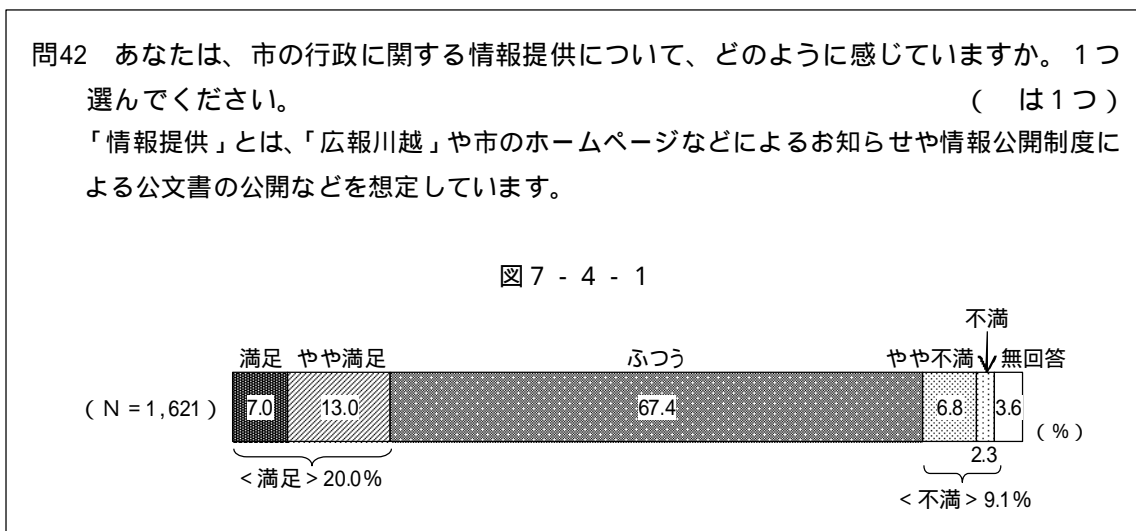
職業別にみると、<利用している>は有職男性が80%半ば、有職女性が80%近く、家事専業が60%近く、無職が40%半ばとなっている。(図7-3-4)

図7-3-4 職業別 インターネット利用状況



## 7 - 4 市の情報提供に対する満足度

<満足>は20.0%

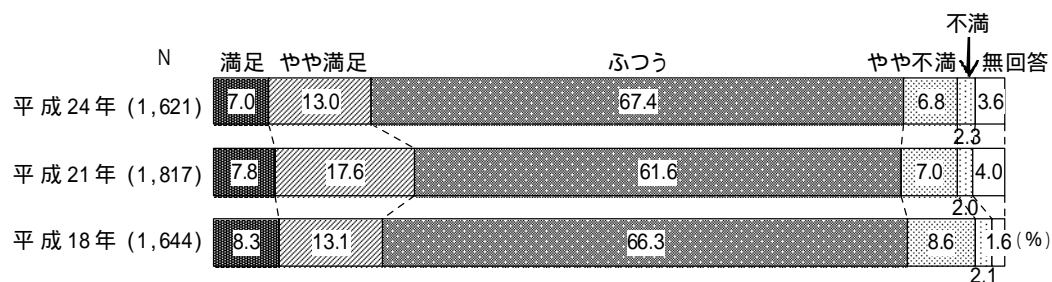


市の情報提供に対する満足度についてたずねたところ、「満足」(7.0%)と「やや満足」(13.0%)を合わせた<満足>(20.0%)は20%となっている。一方、「やや不満」(6.8%)と「不満」(2.3%)を合わせた<不満>(9.1%)は10%近くで、「ふつう」(67.4%)は70%近くとなっている。

(図7-4-1)

時系列でみると、<満足>が20%台、「ふつう」が60%台、<不満>が10%前後で推移しており、大きな傾向の違いはみられない。(図7-4-2)

図7-4-2 時系列 市の情報提供に対する満足度



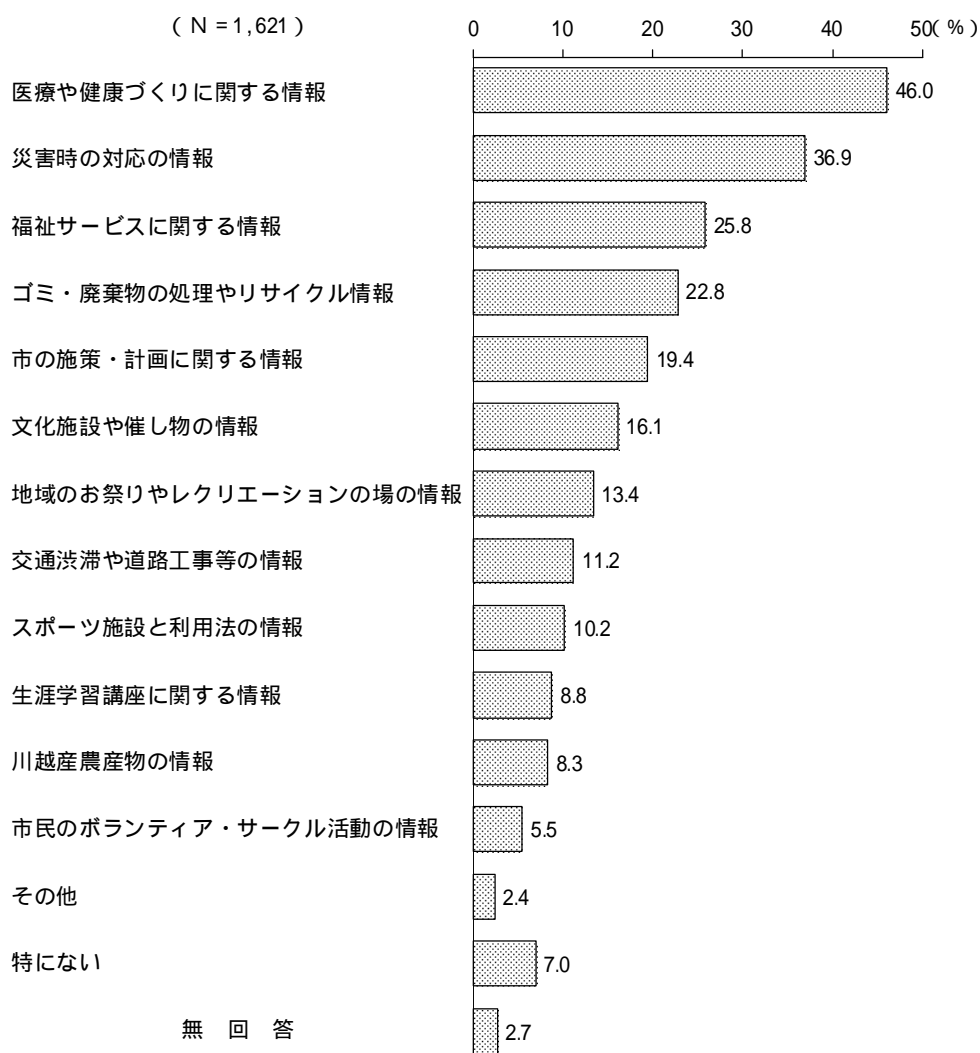


## 7 - 5 必要な市の行政情報

「医療や健康づくりに関する情報」が46.0%

問43 あなたが、今必要としている市からの情報は何か。次の中から3つ以内で選んでください。( は3つ以内)

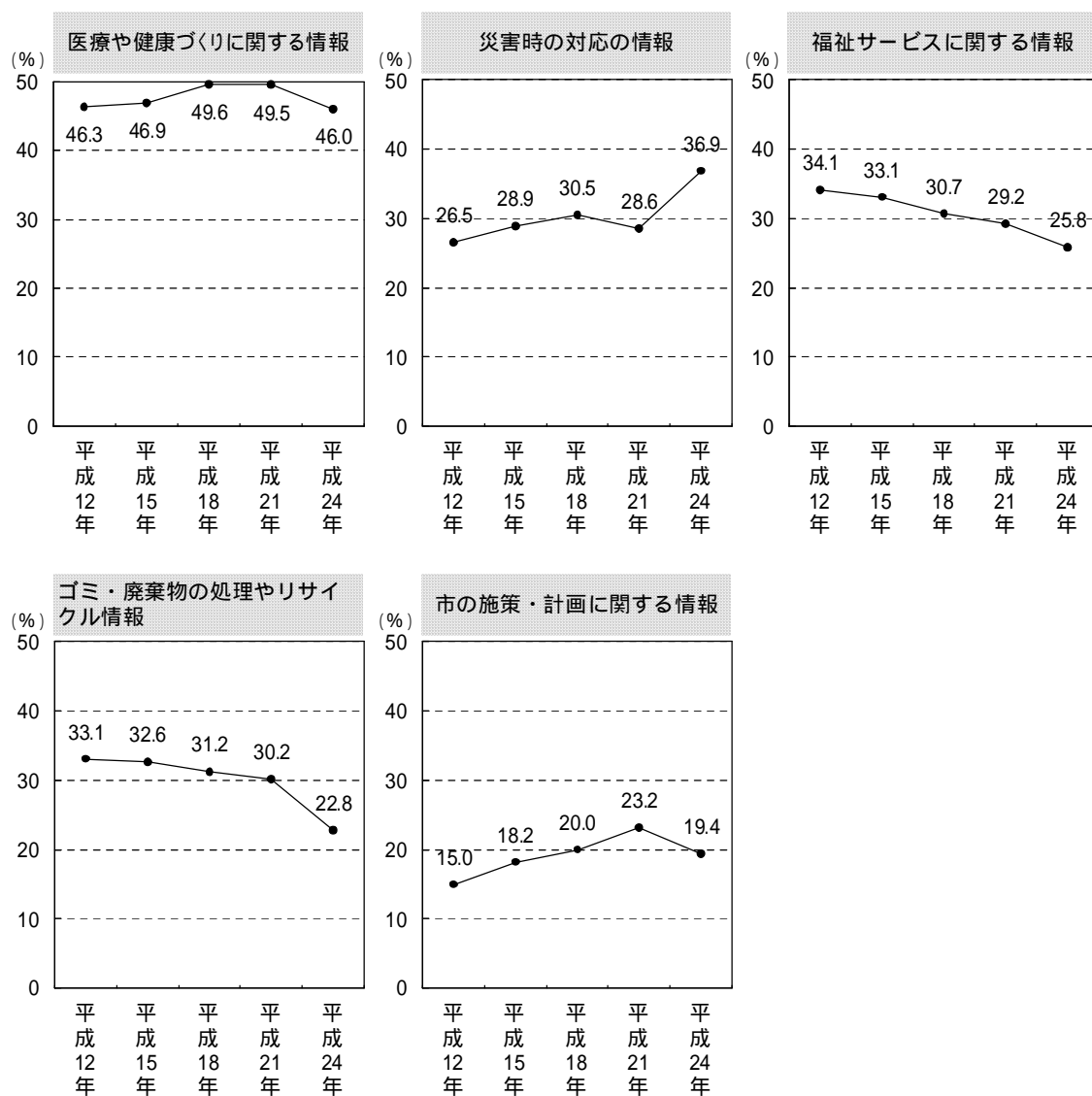
図7 - 5 - 1



必要な市の行政情報をたずねたところ、「医療や健康づくりに関する情報」( 46.0% )が最も多く、40%半ばとなっている。以下、「災害時の対応の情報」( 36.9% )、「福祉サービスに関する情報」( 25.8% )、「ゴミ・廃棄物の処理やリサイクル情報」( 22.8% )、「市の施策・計画に関する情報」( 19.4% )などの順となっている。( 図7 - 5 - 1 )

上位5項目について時系列でみると、「災害時の対応の情報」は前回調査と比べて8.3ポイント増加している。一方、「福祉サービスに関する情報」と「ゴミ・廃棄物の処理やリサイクル情報」は減少傾向となっている。(図7-5-2)

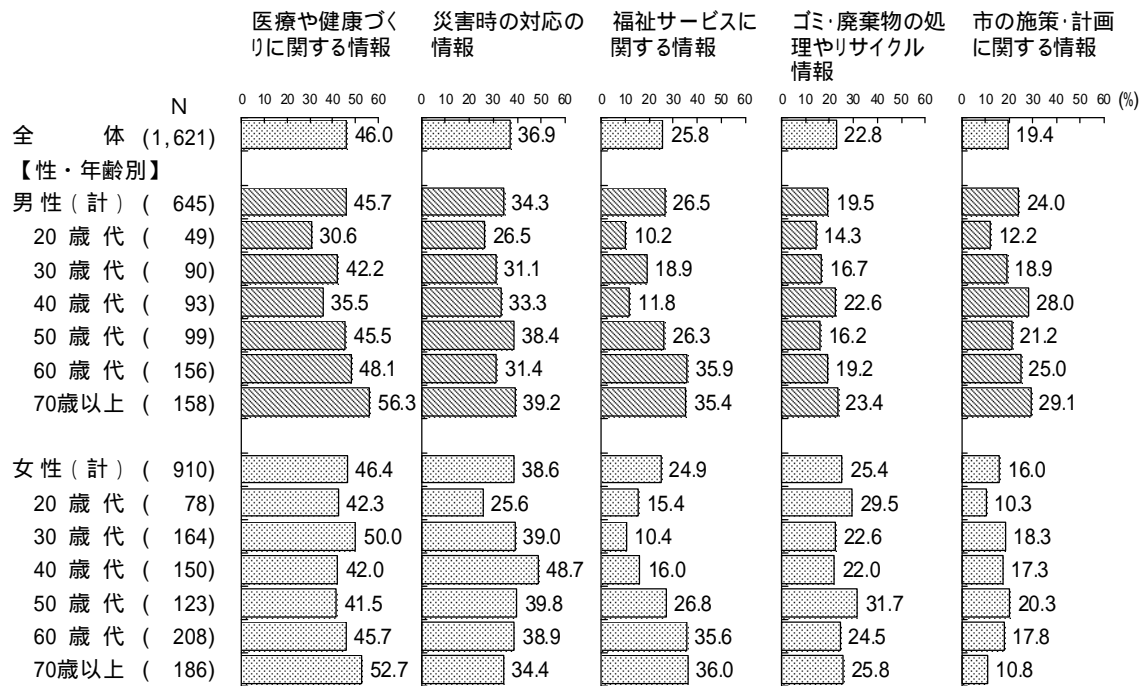
図7-5-2 時系列 必要な市の行政情報



上位5項目を性・年齢別にみると、「医療や健康づくりに関する情報」は男性70歳以上が50%半ばで、女性70歳以上が50%を超えている。「災害時の対応の情報」は女性40歳代が50%近くと多くなっている。「福祉サービスに関する情報」は男女とも60歳代と70歳以上が30%半ばで多くなっている。

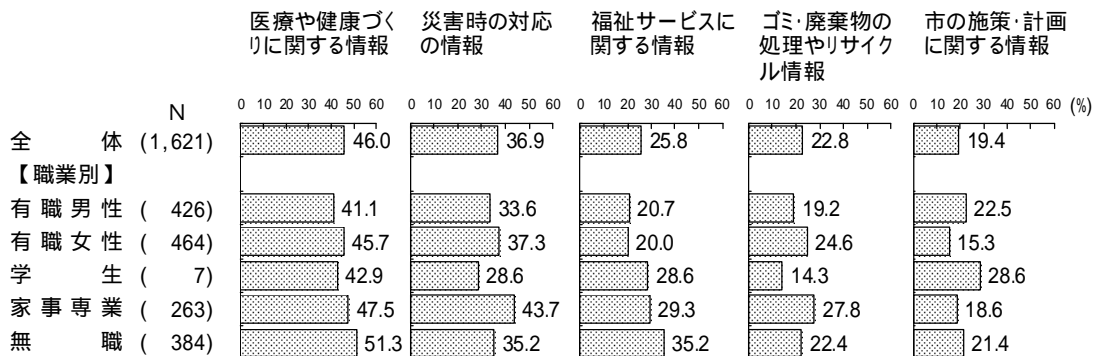
(図7-5-3)

図7-5-3 性・年齢別 必要な市の行政情報



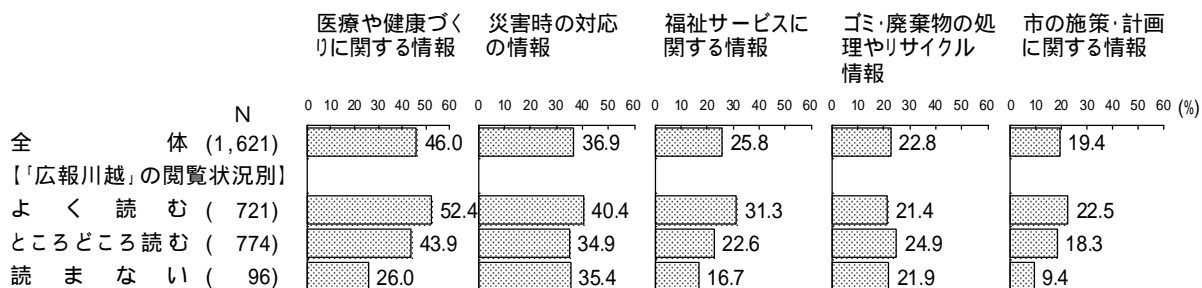
上位5項目を職業別にみると、「医療や健康づくりに関する情報」は無職が50%を超えている。「災害時の対応の情報」は家事専業が40%を超えている。「福祉サービスに関する情報」は無職が30%半ばとなっている。(図7-5-4)

図7-5-4 職業別 必要な市の行政情報



上位5項目を「広報川越」の閲覧状況(問39・151ページ参照)別にみると、「医療や健康づくりに関する情報」、「福祉サービスに関する情報」、「市の施策・計画に関する情報」の各項目は、「広報川越」の閲覧頻度が高い人ほど割合が高くなる傾向にある。(図7-5-5)

図7-5-5 「広報川越」の閲覧状況別 必要な市の行政情報

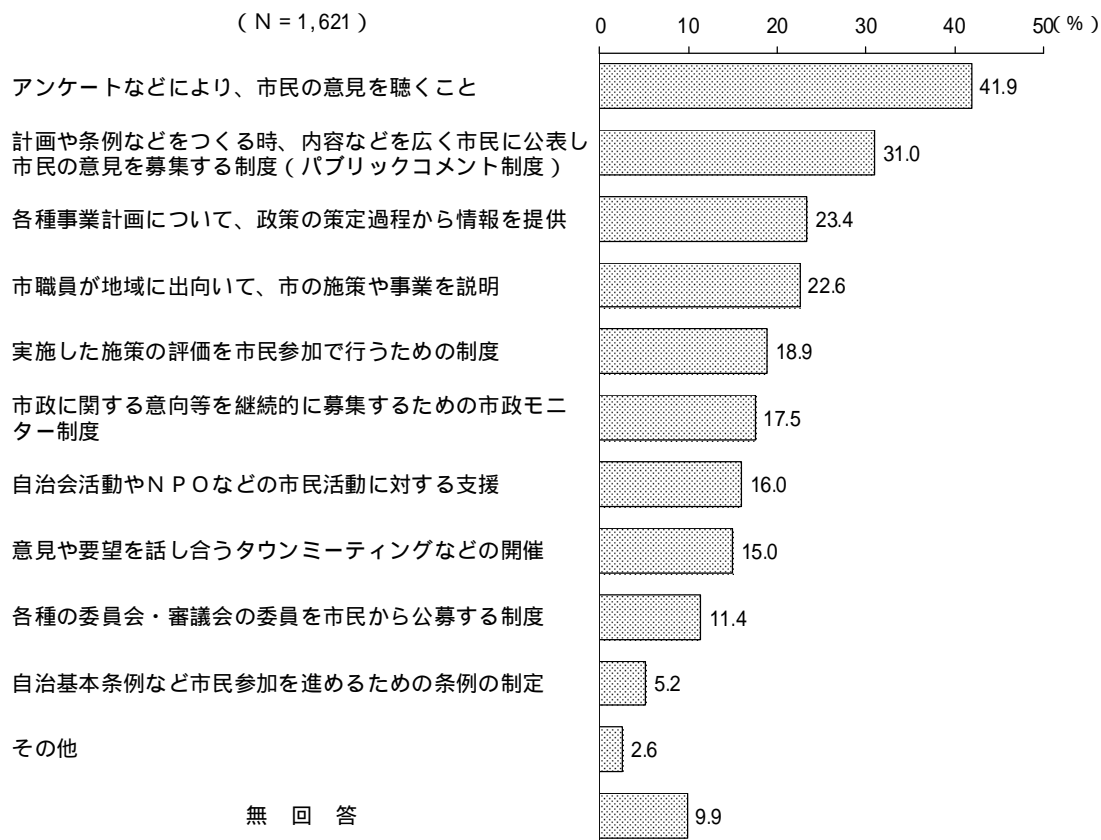


## 7 - 6 市政への市民参加を進めるための取組 「アンケートなどにより、市民の意見を聴くこと」が41.9%

問44 あなたは、市政への市民参加を進めるために市はどのような点に力を入れたら良い  
と思いますか。 (はいくつでも)

図7 - 6 - 1

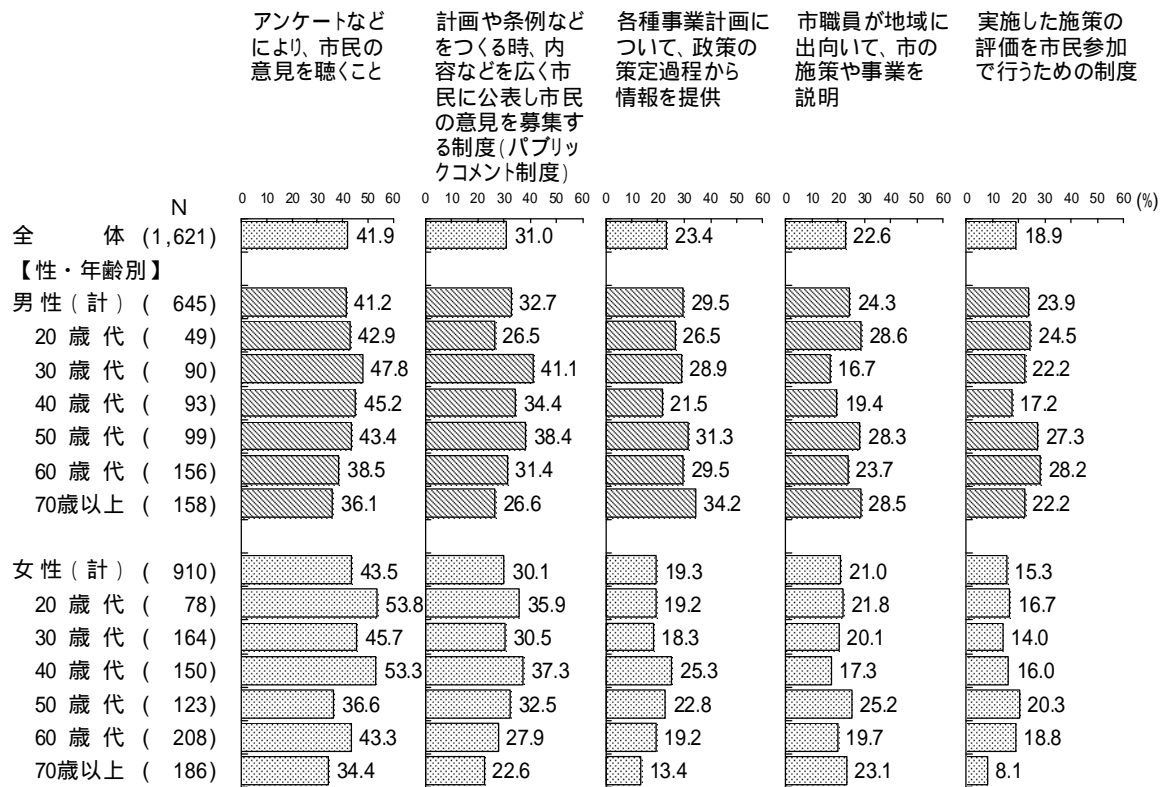
(N = 1,621)



市政への市民参加を進めるための取組をたずねたところ、「アンケートなどにより、市民の意見を聴くこと」(41.9%)が最も多く、40%を超えている。以下、「計画や条例などをつくる時、内容などを広く市民に公表し市民の意見を募集する制度 (パブリックコメント制度)」(31.0%)、「各種事業計画について、政策の策定過程から情報を提供」(23.4%)、「市職員が地域に出向いて、市の施策や事業を説明」(22.6%)などの順となっている。(図7 - 6 - 1)

性・年齢別にみると、「アンケートなどにより、市民の意見を聴くこと」は女性20歳代と40歳代がともに50%を超えて多くなっている。「計画や条例などをつくる時、内容などを広く市民に公表し市民の意見を募集する制度(パブリックコメント制度)」は男性30歳代が40%を超えて多くなっている。「各種事業計画について、政策の策定過程から情報を提供」は男性70歳以上が30%半ばで多くなっている。(図7-6-2)

図7-6-2 性・年齢別 市政への市民参加を進めるための取組

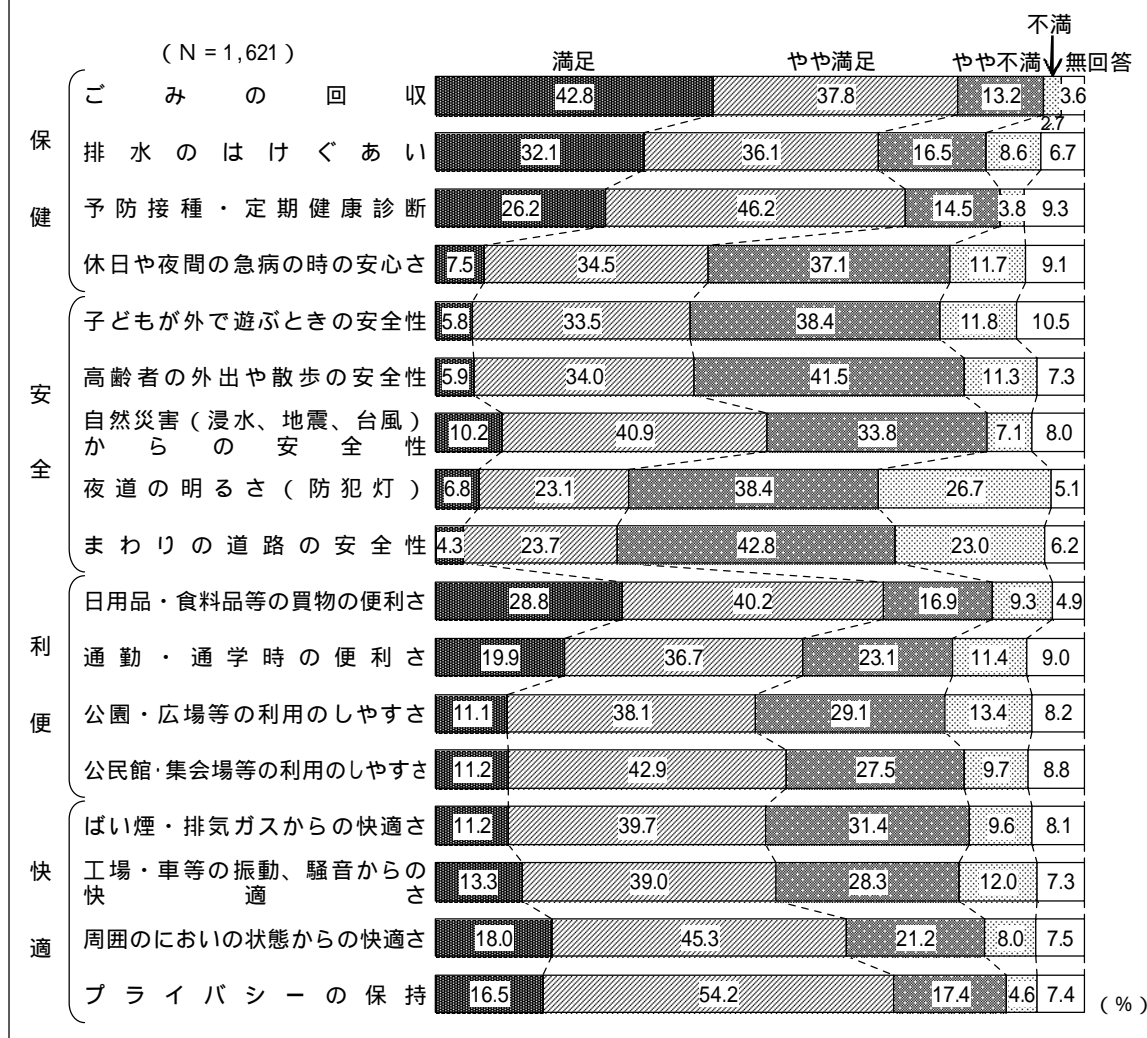


## 7 - 7 地域の生活環境の満足度

17項目中12項目で「満足」が「不満」を上回る

問45 あなたの住んでいる地域の生活環境について、どのように感じていますか。ア)～チ)の各項目ごとに1つずつ選んでください。( )は1つずつ

図7-7-1



地域の生活環境の満足度をたずねたところ、「満足」と「やや満足」を合わせた「満足」の割合は、〔保健〕の分野では『ごみの回収』(80.6%)が最も多く、80%を超えている。〔便利〕の分野では、『日用品・食料品等の買物の便利さ』(69.0%)が最も多く、70%近くとなっている。〔快適〕の分野では、『プライバシーの保持』(70.7%)が最も多く、70%を超えている。

一方、〔安全〕の分野では、「満足」と「やや満足」を合わせた「満足」の割合が、「不満」と「やや不満」を合わせた「不満」の割合を上回るのは、『自然災害(浸水、地震、台風)からの安全性』(51.1%)のみとなっている。「不満」は、『まわりの道路の安全性』(65.8%)が最も多く、60%半ばとなっている。(図7-7-1)

この質問では、項目間の比較を簡単にするため、下式のように5段階評価を与えて、各項目の評価点を算出した。

$$\text{評価点} = \frac{(\text{「満足」の回答者数} \times 2 \text{点}) + (\text{「やや満足」} \times 1 \text{点}) + (\text{「やや不満」} \times (-1 \text{点})) + (\text{「不満」} \times (-2 \text{点}))}{\text{回答者数} - \text{無回答}}$$

この算出方法では、評価点は - 2.00点 ~ + 2.00点の間に分布し、0.00点が中間点であり、+ 2.00点に近いほど評価が良く、逆に - 2.00点に近いほど評価が悪いことになる。

評価点を地区別にみると、〔保健〕の分野では、『休日や夜間の急病の時の安心さ』以外の3つの項目では、11地区すべてで評価点が0.00以上となっている。『休日や夜間の急病の時の安心さ』で評価点が0.00以上となっているのは、古谷地区と南古谷地区のみである。

〔安全〕の分野では、『子どもが外で遊ぶときの安全性』の評価点が0.00以上となっているのは古谷地区、霞ヶ関北地区、芳野地区である。『高齢者の外出や散歩の安全性』の評価点が0.00以上となっているのは芳野地区、霞ヶ関北地区、古谷地区、霞ヶ関地区となっている。『自然災害（浸水、地震、台風）からの安全性』は、高階地区、福原地区、山田地区、南古谷地区以外の7地区の評価点が0.00以上となっている。『夜道の明るさ（防犯灯）』は11地区すべての地区が0.00以下となっており、特に芳野地区の評価点は-1.33と低くなっている。『まわりの道路の安全性』でもすべての地区の評価点が0.00以下となっている。

〔利便〕の分野では、『日用品・食料品等の買物の便利さ』は福原地区と芳野地区以外の9地区の評価点が0.00以上となっており、また評価点の最高と最低の差が1.38で、地域差が大きい。『通勤・通学時の便利さ』は山田地区、福原地区、古谷地区、芳野地区以外の7地区の評価点が0.00以上となっており、また評価点の最高と最低の差が1.59で、地域差が最も大きい。『公園・広場等の利用のしやすさ』は、霞ヶ関北地区、霞ヶ関地区、名細地区、古谷地区、大東地区、芳野地区の評価点が0.00以上で、また評価点の最高と最低の差が1.42で、地域差が大きい。『公民館・集会場等の利用のしやすさ』は、福原地区と南古谷地区以外の9地区の評価点が0.00以上となっている。

〔快適〕の分野では、『ばい煙・排気ガスからの快適さ』は芳野地区、福原地区、山田地区以外の8地区の評価点が0.00以上となっている。『工場・車等の振動、騒音からの快適さ』は山田地区、大東地区、南古谷地区、芳野地区、福原地区で評価点が0.00以下となっている。『周囲のにおいの状態からの快適さ』は南古谷地区を除く10地区で評価点が0.00以上となっている。『プライバシーの保持』はすべての地区で評価点が0.00以上となっている。

ア) からチ) までのすべての回答を足し合わせた総合評価点は、芳野地区と福原地区以外の9地区で評価点が0.00以上となっており、最も評価点が高いのは霞ヶ関北地区(0.50)となっている。

(表7-7-1)



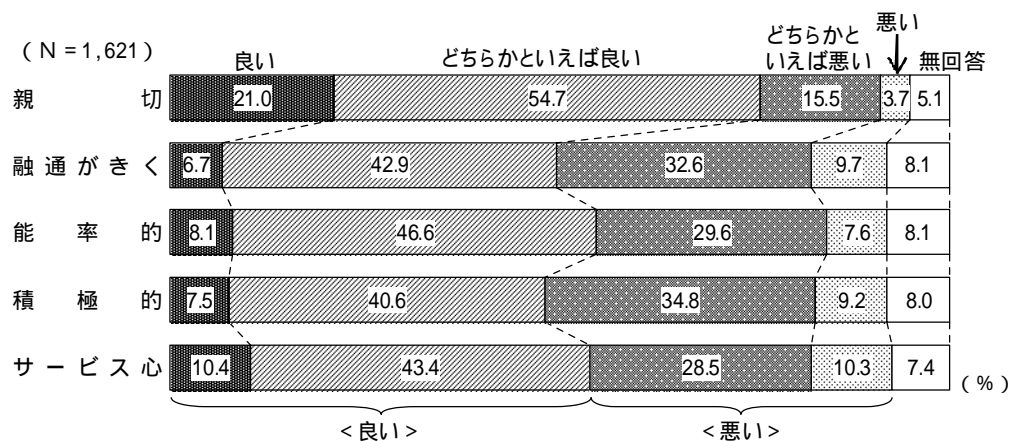
表 7 - 7 - 1 地区別 地域の生活環境の満足度

項目	地区												最高と最低の差	
	市全体	本庁地区	芳野地区	古谷地区	南古谷地区	高階地区	福原地区	大東地区	霞ヶ関地区	霞ヶ関北地区	名細地区	山田地区		
保	ア) ごみの回収	1.09	1.10	0.92	1.32	0.87	1.08	1.12	1.16	1.16	1.07	1.09	1.02	0.45
	イ) 排水のはけぐあい	0.71	1.03	0.33	0.93	0.27	0.46	0.35	0.79	0.84	0.86	0.76	0.51	0.76
健	ウ) 予防接種・定期健康診断	0.84	0.92	0.76	1.04	0.75	0.72	0.88	1.02	0.84	0.87	0.76	0.73	0.32
	エ) 休日や夜間の急病の時の安心さ	-0.12	-0.02	-0.04	0.17	0.05	-0.23	-0.07	-0.10	-0.15	-0.32	-0.33	-0.06	0.50
安	オ) 子どもが外で遊ぶときの安全性	-0.19	-0.37	0.09	0.20	-0.19	-0.38	-0.37	-0.17	-0.07	0.14	-0.06	-0.34	0.58
	カ) 高齢者の外出や散歩の安全性	-0.20	-0.30	0.17	0.04	-0.25	-0.37	-0.60	-0.14	0.00	0.13	-0.13	-0.28	0.77
	キ) 自然災害(浸水、地震、台風)からの安全性	0.14	0.30	0.00	0.19	-0.19	-0.05	-0.08	0.29	0.36	0.47	0.04	-0.15	0.66
	ク) 夜道の明るさ(防犯灯)	-0.58	-0.42	-1.33	-0.62	-0.99	-0.60	-0.80	-0.77	-0.54	-0.15	-0.28	-0.97	1.18
	ケ) まわりの道路の安全性	-0.60	-0.60	-0.60	-0.56	-0.92	-0.68	-0.92	-0.80	-0.42	-0.07	-0.37	-0.94	0.87
利	コ) 日用品・食料品等の買物の便利さ	0.66	0.99	-0.28	0.00	0.78	0.92	-0.06	0.20	0.74	1.10	0.60	0.39	1.38
	サ) 通勤・通学時の便利さ	0.34	0.83	-0.76	-0.26	0.05	0.67	-0.23	0.08	0.27	0.58	0.50	-0.21	1.59
	シ) 公園・広場等の利用のしやすさ	0.05	-0.05	0.00	0.26	-0.34	-0.14	-0.59	0.28	0.43	0.80	0.39	-0.62	1.42
	ス) 公民館・集会場等の利用のしやすさ	0.20	0.16	0.33	0.37	-0.07	0.20	-0.01	0.20	0.39	0.41	0.44	0.00	0.51
快	セ) ばい煙・排気ガスからの快適さ	0.12	0.01	-0.11	0.16	0.03	0.10	-0.15	0.01	0.43	0.51	0.44	-0.16	0.67
	ソ) 工場・車等の振動、騒音からの快適さ	0.14	0.08	-0.15	0.31	-0.09	0.24	-0.16	-0.06	0.37	0.52	0.41	-0.06	0.68
	タ) 周囲のにおいの状態からの快適さ	0.48	0.60	0.02	0.56	-0.09	0.60	0.00	0.26	0.69	0.80	0.67	0.54	0.89
	チ) プライバシーの保持	0.65	0.70	0.53	0.61	0.47	0.63	0.49	0.57	0.79	0.78	0.78	0.66	0.32
総合評価点		0.22	0.29	-0.01	0.28	0.01	0.19	-0.07	0.17	0.36	0.50	0.34	0.00	0.57

## 7 - 8 市職員のイメージについて 評価が最も高いのは『親切』

問46 市役所職員のイメージについてどう思いますか。それぞれのイメージについて評価してください。( は1つずつ)

図7 - 8 - 1

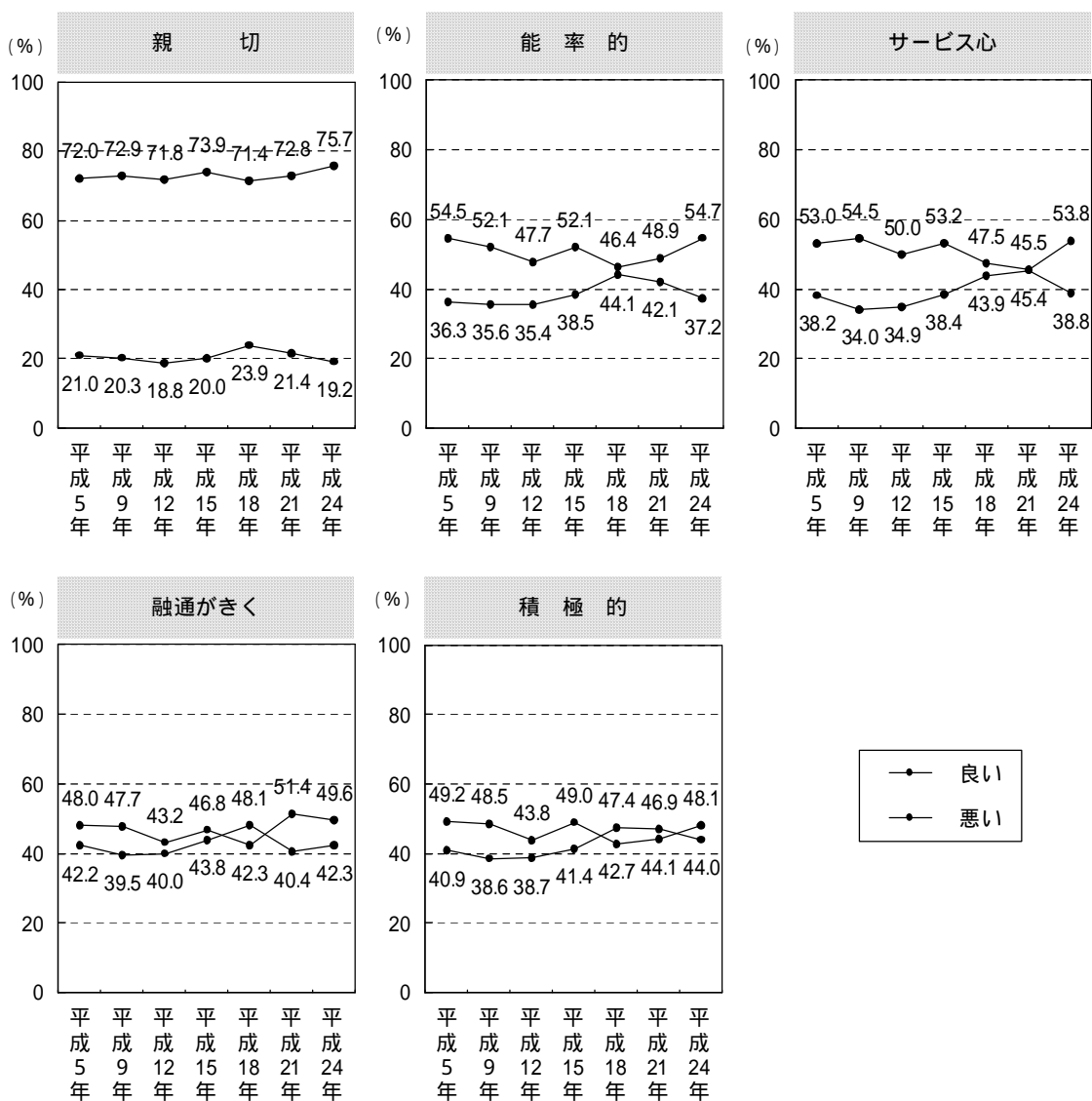


市職員のイメージについて、5項目に分けて評価をたずねたところ、「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせた<良い>の割合は、『親切』(75.7%)が最も多く、70%半ばとなっている。以下、『能率的』(54.7%)、『サービス心』(53.8%)、『融通がきく』(49.6%)、『積極的』(48.1%)の順となっている。(図7 - 8 - 1)

時系列でみると、＜良い＞の割合は『融通がきく』以外の4項目が前回調査と比べて増加しており、特に『サービス心』が8.3ポイント、『能率的』が5.8ポイント、それぞれ増加している。

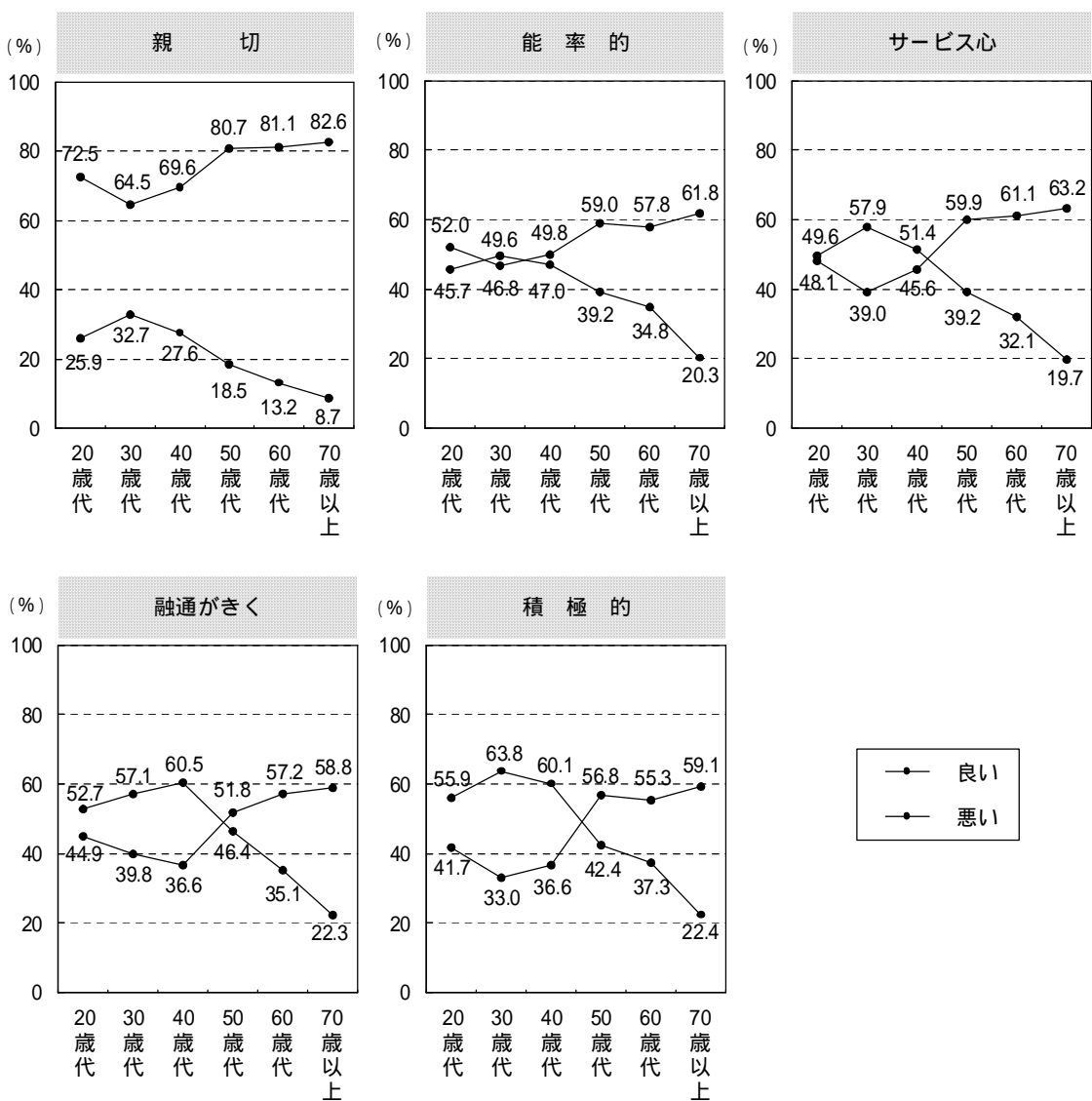
(図7-8-2)

図7-8-2 時系列 市職員のイメージについて



年齢別にみると、すべての項目で、＜良い＞の割合は、40歳代以下の年代に比べて、50歳代以上の年代で割合が高くなっている。また、＜良い＞は、すべての項目で、70歳以上が他の年代に比べて最も割合が多くなっている。一方、＜悪い＞は、『親切』、『能率的』、『サービス心』、『積極的』の4項目は30歳代が、『融通がきく』は40歳代が、それぞれ他の年代に比べて最も割合が多くなっている。(図7-8-3)

図7-8-3 年齢別 市職員のイメージについて



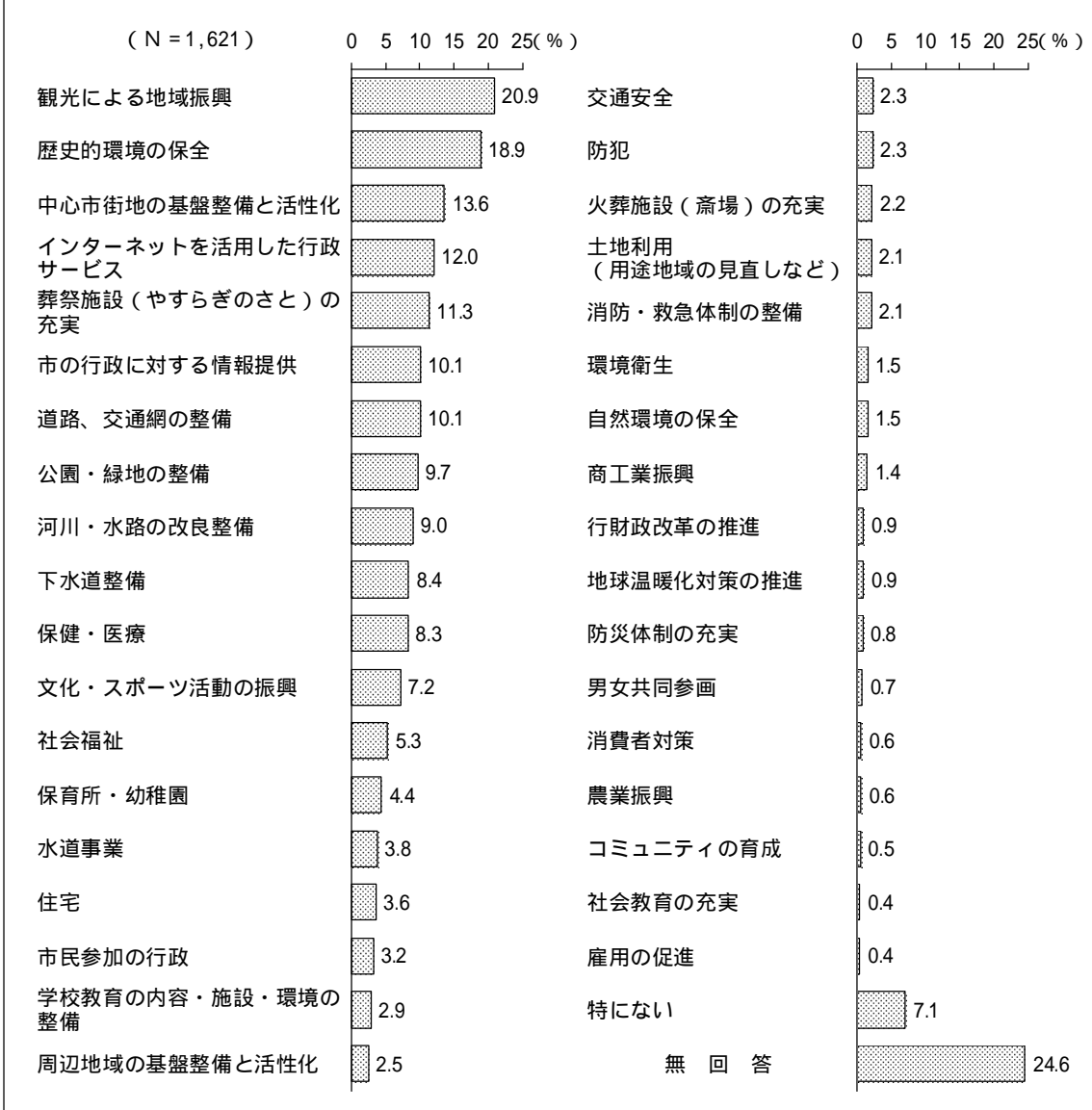
## 7 - 9 よくなってきた市の施策 / 力を入れるべき市の施策

### (1) よくなってきた市の施策

「観光による地域振興」が20.9%

問47 市政全般について、よくなってきた施策を3つ選んで回答欄に番号を記入してください。

図7-9-1

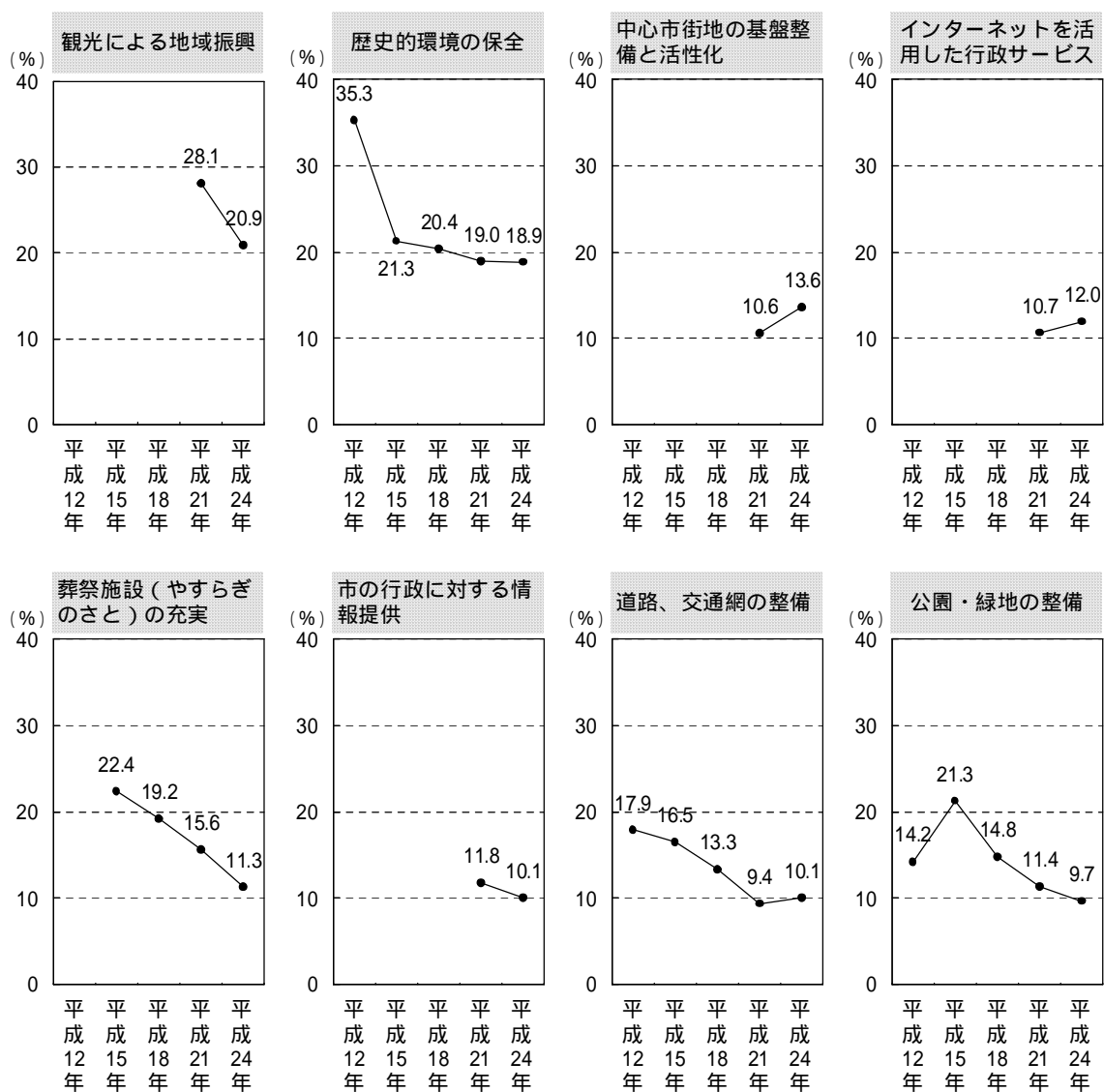


よくなってきた市の施策をたずねたところ、「観光による地域振興」(20.9%)が最も多く、20%を超えている。以下、「歴史的環境の保全」(18.9%)、「中心市街地の基盤整備と活性化」(13.6%)、「インターネットを活用した行政サービス」(12.0%)、「葬祭施設(やすらぎのさと)の充実」(11.3%)などの順となっている。(図7-9-1)

上位8項目について時系列でみると、平成21年調査で選択肢の追加・変更があったため平成18年調査以前との比較は参考にとどまるが、「中心市街地の基盤整備と活性化」は前回調査と比べて3.0ポイント増加している。一方、「観光による地域振興」は前回調査と比べて7.2ポイント、「葬祭施設（やすらぎのさと）の充実」は前回調査と比べて4.3ポイント、それぞれ減少している。

(図7-9-2)

図7-9-2 時系列 よくなってきた市の施策



上位5項目を地区別にみると、「観光による地域振興」は本庁地区、芳野地区、福原地区、霞ヶ関地区、名細地区、山田地区の計6地区で第1位となっている。「歴史的環境の保全」は古谷地区、南古谷地区、高階地区が第1位、大東地区で同率の第1位となっている。「公園・緑地の整備」は霞ヶ関北地区で第1位、大東地区で同率の第1位となっている。(表7-9-1)

表7-9-1 地区別 よくなってきた市の施策

属性	順位	N	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,621	観光による地域振興 20.9%	歴史的環境の保全 18.9%	中心市街地の基盤整備と活性化 13.6%	インターネットを活用した行政サービス 12.0%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 11.3%
【地区別】							
本庁地区		373	観光による地域振興 30.0%	歴史的環境の保全 23.6%	中心市街地の基盤整備と活性化 18.0%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 13.7%	インターネットを活用した行政サービス 11.3%
芳野地区		50	観光による地域振興 22.0%	歴史的環境の保全 20.0%	中心市街地の基盤整備と活性化/下水道整備 16.0%	インターネットを活用した行政サービス/保健・医療 14.0%	
古谷地区		74	歴史的環境の保全 25.7%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 21.6%	観光による地域振興 16.2%	インターネットを活用した行政サービス 14.9%	中心市街地の基盤整備と活性化/公園・緑地の整備/保健・医療 12.2%
南古谷地区		115	歴史的環境の保全 20.9%	観光による地域振興 18.3%	インターネットを活用した行政サービス 13.9%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 12.2%	河川・水路の改良整備 11.3%
高階地区		202	歴史的環境の保全 18.8%	観光による地域振興 16.3%	市の行政に対する情報提供/河川・水路の改良整備 11.9%	中心市街地の基盤整備と活性化/インターネットを活用した行政サービス/下水道整備 11.4%	
福原地区		87	観光による地域振興 19.5%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実/河川・水路の改良整備 16.1%	歴史的環境の保全/中心市街地の基盤整備と活性化/道路、交通網の整備 12.6%		
大東地区		139	歴史的環境の保全/公園・緑地の整備 20.1%	中心市街地の基盤整備と活性化/道路、交通網の整備 18.0%	観光による地域振興 16.5%		
霞ヶ関地区		179	観光による地域振興 19.6%	歴史的環境の保全 15.6%	中心市街地の基盤整備と活性化 15.1%	公園・緑地の整備 12.8%	インターネットを活用した行政サービス 12.3%
霞ヶ関北地区		108	公園・緑地の整備 24.1%	観光による地域振興 19.4%	歴史的環境の保全 15.7%	市の行政に対する情報提供 12.0%	河川・水路の改良整備/下水道整備/文化・スポーツ活動の振興 10.2%
名細地区		121	観光による地域振興 21.5%	歴史的環境の保全 18.2%	下水道整備 13.2%	インターネットを活用した行政サービス 12.4%	公園・緑地の整備 11.6%
山田地区		66	観光による地域振興 22.7%	歴史的環境の保全 21.2%	中心市街地の基盤整備と活性化/道路、交通網の整備 15.2%	インターネットを活用した行政サービス 12.1%	

上位5項目を性別にみると、「歴史的環境の保全」は男性(21.7%・第1位)が女性(17.8%・第2位)より3.9ポイント高くなっている。

上位5項目を性・年齢別にみると、「観光による地域振興」は男性の40歳代から60歳代、女性の20歳代から60歳代の年代で同率も含めて第1位となっている。「歴史的環境の保全」は男性30歳代で第1位、女性40歳代で同率の第1位となっている。「中心市街地の基盤整備と活性化」は男性20歳代、「下水道整備」は男性70歳以上、「市の行政に対する情報提供」は女性70歳以上でそれぞれ第1位となっている。(表7-9-2)

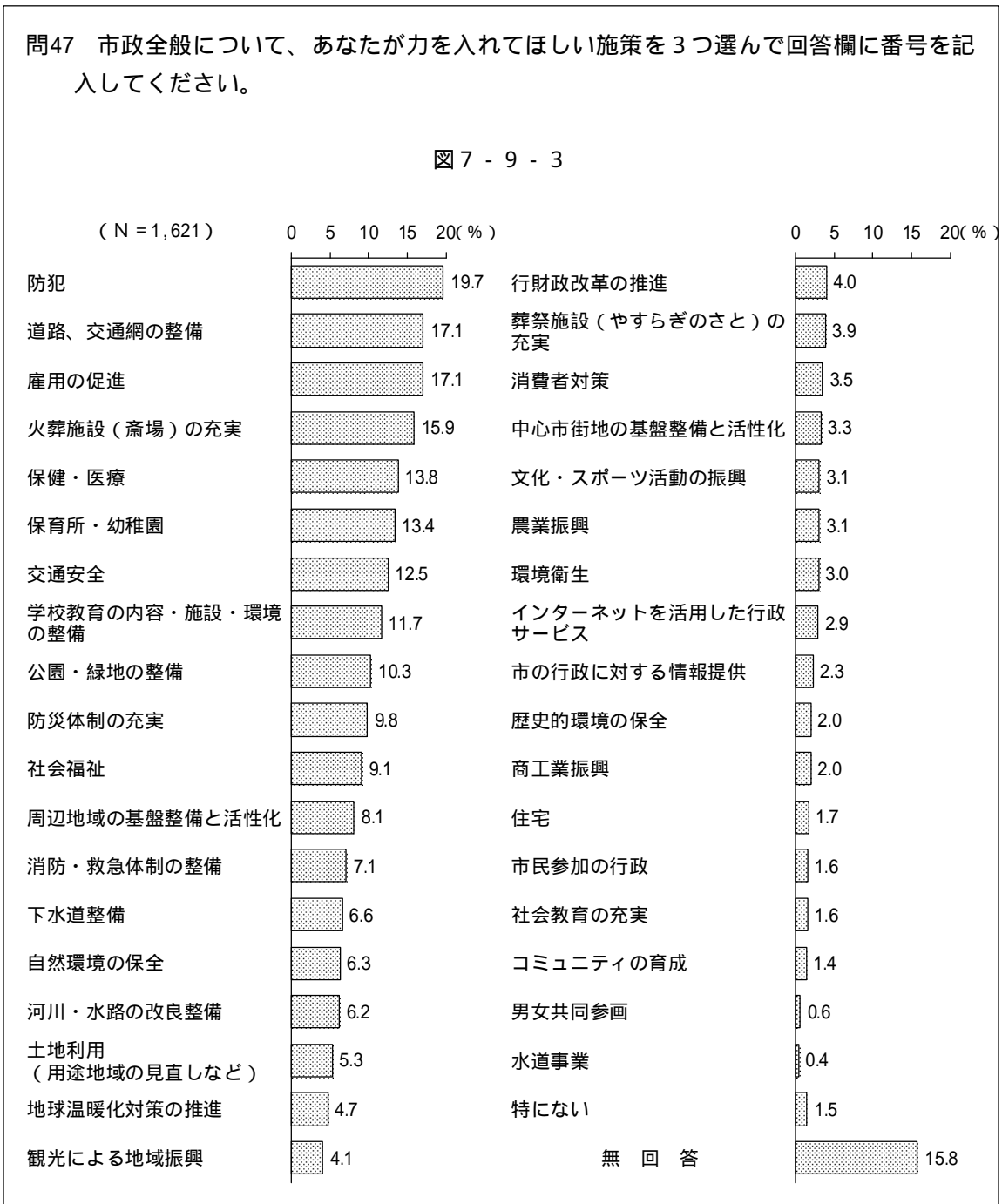
表7-9-2 性・年齢別 よくなってきた市の施策

属性	順位	N	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,621	観光による地域振興 20.9%	歴史的環境の保全 18.9%	中心市街地の基盤整備と活性化 13.6%	インターネットを活用した行政サービス 12.0%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 11.3%
【性・年齢別】							
男性		645	歴史的環境の保全 21.7%	観光による地域振興 21.4%	道路、交通網の整備 14.0%	中心市街地の基盤整備と活性化 13.2%	下水道整備 11.8%
女性		910	観光による地域振興 20.9%	歴史的環境の保全 17.8%	中心市街地の基盤整備と活性化 14.0%	インターネットを活用した行政サービス 12.1%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 11.1%
男性20歳代		49	中心市街地の基盤整備と活性化 28.6%	道路、交通網の整備 20.4%	観光による地域振興 18.4%	インターネットを活用した行政サービス 16.3%	歴史的環境の保全 14.3%
30歳代		90	歴史的環境の保全 27.8%	観光による地域振興 23.3%	公園・緑地の整備 14.4%	中心市街地の基盤整備と活性化 / 葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 13.3%	
40歳代		93	観光による地域振興 29.0%	歴史的環境の保全 23.7%	インターネットを活用した行政サービス 21.5%	道路、交通網の整備 19.4%	中心市街地の基盤整備と活性化 12.9%
50歳代		99	観光による地域振興 29.3%	歴史的環境の保全 27.3%	道路、交通網の整備 20.2%	河川・水路の改良整備 19.2%	インターネットを活用した行政サービス / 葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 16.2%
60歳代		156	観光による地域振興 21.8%	歴史的環境の保全 21.2%	下水道整備 14.1%	中心市街地の基盤整備と活性化 / 葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 12.2%	
70歳以上		158	下水道整備 18.4%	歴史的環境の保全 16.5%	市の行政に対する情報提供 15.8%	保健・医療 14.6%	社会福祉 12.0%
女性20歳代		78	観光による地域振興 26.9%	歴史的環境の保全 23.1%	インターネットを活用した行政サービス 19.2%	中心市街地の基盤整備と活性化 14.1%	文化・スポーツ活動の振興 9.0%
30歳代		164	観光による地域振興 25.6%	歴史的環境の保全 20.1%	インターネットを活用した行政サービス 18.3%	道路、交通網の整備 11.6%	中心市街地の基盤整備と活性化 9.8%
40歳代		150	観光による地域振興 / 歴史的環境の保全 25.3%	22.8%	中心市街地の基盤整備と活性化 16.7%	インターネットを活用した行政サービス / 葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 13.3%	
50歳代		123	観光による地域振興 24.4%	葬祭施設(やすらぎのさと)の充実 22.8%	歴史的環境の保全 / 中心市街地の基盤整備と活性化 / インターネットを活用した行政サービス 17.9%		
60歳代		208	観光による地域振興 20.2%	歴史的環境の保全 17.3%	中心市街地の基盤整備と活性化 16.8%	公園・緑地の整備 15.9%	河川・水路の改良整備 12.5%
70歳以上		186	市の行政に対する情報提供 15.1%	道路、交通網の整備 10.2%	中心市街地の基盤整備と活性化 / 保健・医療 9.7%	観光による地域振興 / 下水道整備 9.1%	



(2) 力を入れるべき市の施策

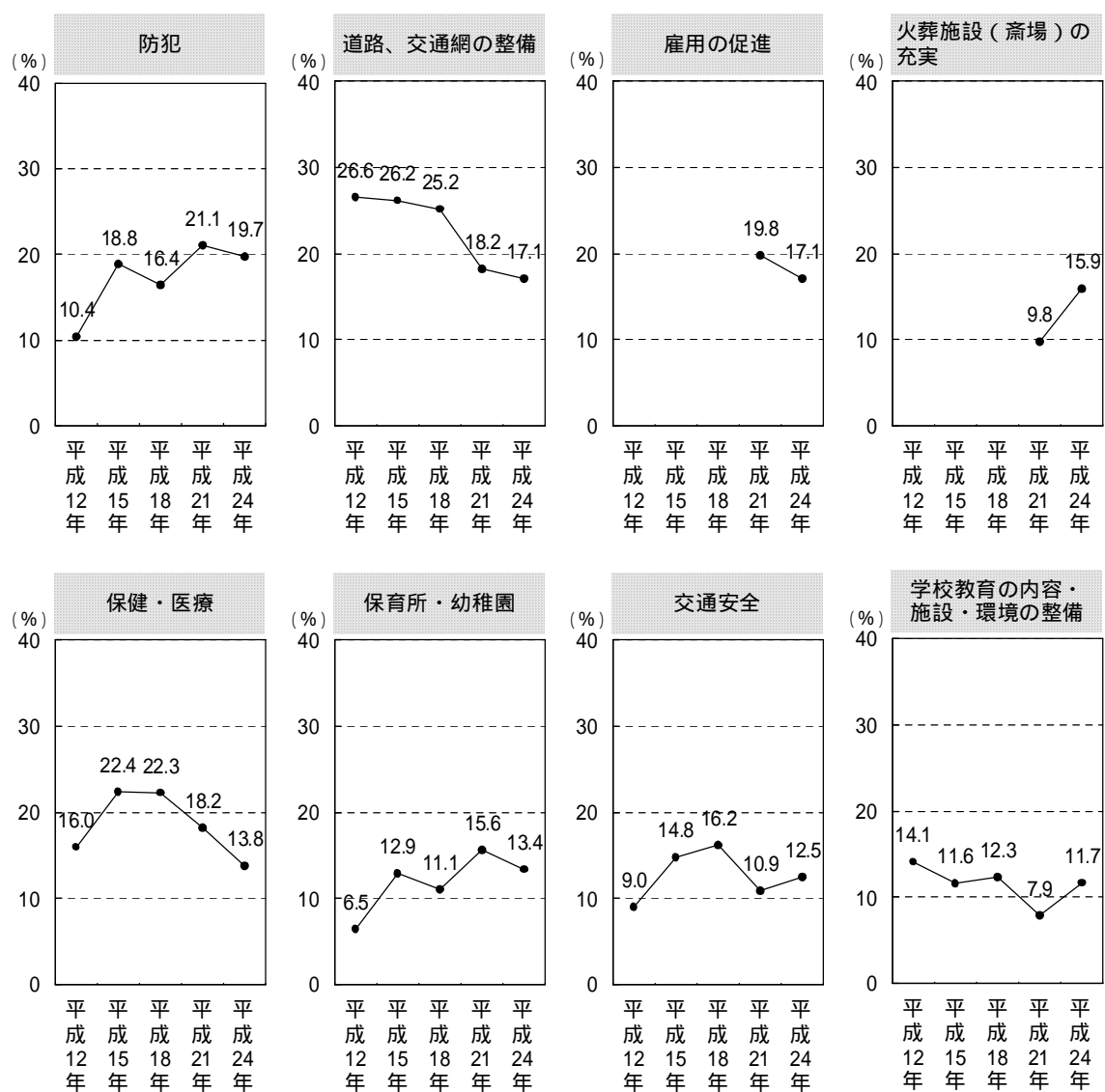
「防犯」が19.7%



力を入れるべき市の施策をたずねたところ、「防犯」(19.7%)が最も多く、以下、「道路、交通網の整備」(17.1%)、「雇用の促進」(17.1%)、「火葬施設(斎場)の充実」(15.9%)、「保健・医療」(13.8%)などの順となっている。(図7-9-3)

上位8項目について時系列でみると、平成21年調査で選択肢の追加・変更があったため平成18年調査以前との比較は参考にとどまるが、「火葬施設（斎場の整備）の充実」は前回調査と比べて6.1ポイント、「学校教育の内容・施設・環境の整備」は前回調査と比べて3.8ポイント増加している。一方、「保健・医療」は前回調査と比べて4.4ポイント減少している。（図7-9-4）

図7-9-4 時系列 力を入れるべき市の施策



上位5項目を地区別にみると、「防犯」は本庁地区、古谷地区、霞ヶ関地区、霞ヶ関北地区で第1位、南古谷地区で同率の第1位となっている。「雇用の促進」は高階地区、大東地区、名細地区で第1位、芳野地区で同率の第1位となっている。「道路、交通網の整備」は福原地区で第1位、南古谷地区で同率の第1位となっている。「火葬施設(斎場)の充実」は山田地区で第1位となっている。「学校教育の内容・施設・環境の整備」は芳野地区で同率の第1位となっている。(表7-9-3)

表7-9-3 地区別 力を入れるべき市の施策

順位 属性	N	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体	1,621	防犯 19.7%	道路、交通網の整備(注) 17.1%	雇用の促進(注) 17.1%	火葬施設(斎場)の充実 15.9%	保健・医療 13.8%
【地区別】						
本 庁 地 区	373	防犯 23.6%	道路、交通網の整備 19.0%	交通安全 16.4%	火葬施設(斎場)の充実 15.5%	保健・医療 / 学校教育の内容・施設・環境の整備 14.2%
芳 野 地 区	50	雇用の促進 / 学校教育の内容・施設・環境の整備 22.0%	火葬施設(斎場)の充実 20.0%	保健・医療 / 周辺地域の基盤整備と活性化 16.0%		
古 谷 地 区	74	防犯 25.7%	雇用の促進 21.6%	火葬施設(斎場)の充実 / 保育所・幼稚園 18.9%	道路、交通網の整備 17.6%	
南 古 谷 地 区	115	防犯 / 道路、交通網の整備 21.7%	保育所・幼稚園 20.0%	公園・緑地の整備 16.5%	下水道整備 15.7%	
高 階 地 区	202	雇用の促進 19.8%	道路、交通網の整備 19.3%	火葬施設(斎場)の充実 16.8%	保育所・幼稚園 14.9%	防犯 14.4%
福 原 地 区	87	道路、交通網の整備 27.6%	防犯 24.1%	雇用の促進 17.2%	保健・医療 / 下水道整備 16.1%	
大 東 地 区	139	雇用の促進 20.1%	防犯 19.4%	道路、交通網の整備 18.7%	火葬施設(斎場)の充実 16.5%	保健・医療 / 交通安全 / 防災体制の充実 15.1%
霞 ヶ 関 地 区	179	防犯 19.0%	道路、交通網の整備 15.6%	雇用の促進 / 火葬施設(斎場)の充実 15.1%	保健・医療 14.5%	
霞 ヶ 関 北 地 区	108	防犯 21.3%	雇用の促進 20.4%	火葬施設(斎場)の充実 16.7%	社会福祉 15.7%	保健・医療 14.8%
名 細 地 区	121	雇用の促進 20.7%	防災体制の充実 16.5%	防犯 14.9%	火葬施設(斎場)の充実 / 交通安全 14.0%	
山 田 地 区	66	火葬施設(斎場)の充実 25.8%	保健・医療 19.7%	防犯 18.2%	道路、交通網の整備 15.2%	雇用の促進 13.6%

(注) 全体では、「道路、交通網の整備」と答えた人は1,621人中278人(17.1%)、「雇用の促進」と答えた人は1,621人中277人(17.1%)となっている。

上位5項目を性別にみると、「防犯」が男女とも第1位となっている。「道路、交通網の整備」は男性(19.4%・第2位)が女性(16.0%・第3位)より3.4ポイント高く、「雇用の促進」は女性(18.6%・第2位)が男性(14.9%・第4位)より3.7ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「防犯」は男性30歳代と40歳代で、「道路、交通網の整備」は男性20歳代と50歳代で第1位となっている。「雇用の促進」は女性50歳代で、「火葬施設(斎場)の充実」は男女とも60歳代と70歳以上で第1位となっている。「保育所・幼稚園」は女性20歳代と30歳代で、「学校教育の内容・施設・環境の整備」は女性40歳代で第1位となっている。(表7-9-4)

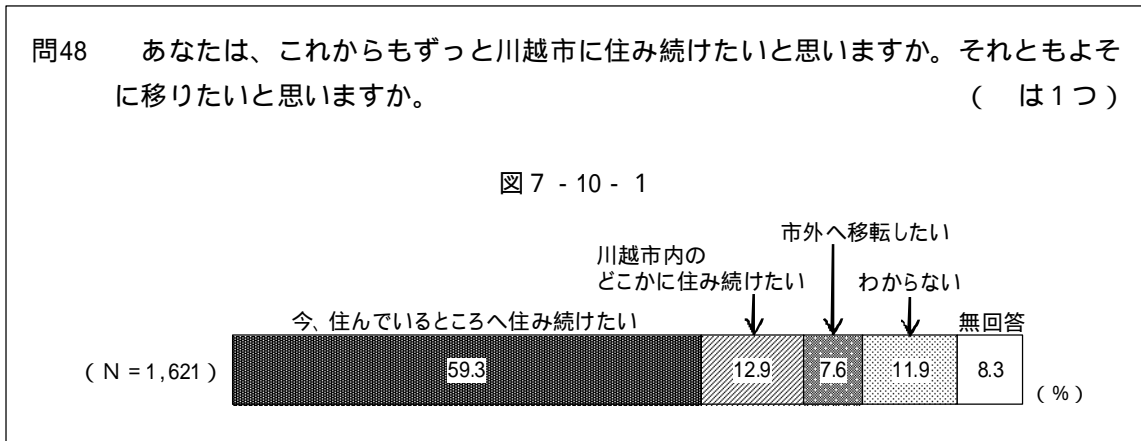
表7-9-4 性・年齢別 力を入れるべき市の施策

順位 属性	N	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体	1,621	防犯 19.7%	道路、交通網の整備(注) 17.1%	雇用の促進(注) 17.1%	火葬施設(斎場)の充実 15.9%	保健・医療 13.8%
【性・年齢別】						
男 性	645	防犯 20.0%	道路、交通網の整備 19.4%	火葬施設(斎場)の充実 16.9%	雇用の促進 14.9%	保健・医療 14.0%
女 性	910	防犯 19.7%	雇用の促進 18.6%	道路、交通網の整備 16.0%	保育所・幼稚園 15.9%	火葬施設(斎場)の充実 14.8%
男性20歳代	49	道路、交通網の整備 34.7%	防犯 28.6%	公園・緑地の整備 22.4%	雇用の促進 20.4%	交通安全 18.4%
30歳代	90	防犯 27.8%	保育所・幼稚園 / 学校教育の内容・施設・環境の整備 24.4%	道路、交通網の整備 22.2%	交通安全 17.8%	
40歳代	93	防犯 32.3%	道路、交通網の整備 / 交通安全 16.1%	雇用の促進 14.0%	公園・緑地の整備 12.9%	
50歳代	99	道路、交通網の整備 28.3%	保健・医療 19.2%	雇用の促進 18.2%	交通安全 16.2%	防犯 / 火葬施設(斎場)の充実 15.2%
60歳代	156	火葬施設(斎場)の充実 27.6%	雇用の促進 18.6%	道路、交通網の整備 16.7%	防犯 16.0%	保健・医療 13.5%
70歳以上	158	火葬施設(斎場)の充実 22.8%	防犯 12.7%	道路、交通網の整備 / 保健・医療 12.0%	雇用の促進 11.4%	
女性20歳代	78	保育所・幼稚園 35.9%	公園・緑地の整備 26.9%	防犯 25.6%	交通安全 20.5%	道路、交通網の整備 / 雇用の促進 19.2%
30歳代	164	保育所・幼稚園 30.5%	防犯 25.6%	道路、交通網の整備 / 雇用の促進 22.0%	学校教育の内容・施設・環境の整備 18.3%	
40歳代	150	学校教育の内容・施設・環境の整備 27.3%	防犯 24.7%	道路、交通網の整備 23.3%	雇用の促進 / 保健・医療 21.3%	
50歳代	123	雇用の促進 22.8%	防犯 21.1%	火葬施設(斎場)の充実 19.5%	道路、交通網の整備 16.3%	社会福祉 15.4%
60歳代	208	火葬施設(斎場)の充実 25.0%	雇用の促進 17.8%	防犯 15.4%	道路、交通網の整備 / 社会福祉 13.0%	
70歳以上	186	火葬施設(斎場)の充実 19.9%	防犯 11.8%	雇用の促進 11.3%	保健・医療 / 防災体制の充実 9.7%	

(注) 全体では、「道路、交通網の整備」と答えた人は1,621人中278人(17.1%)、「雇用の促進」と答えた人は1,621人中277人(17.1%)となっている。

## 7 - 10 市への定住意向

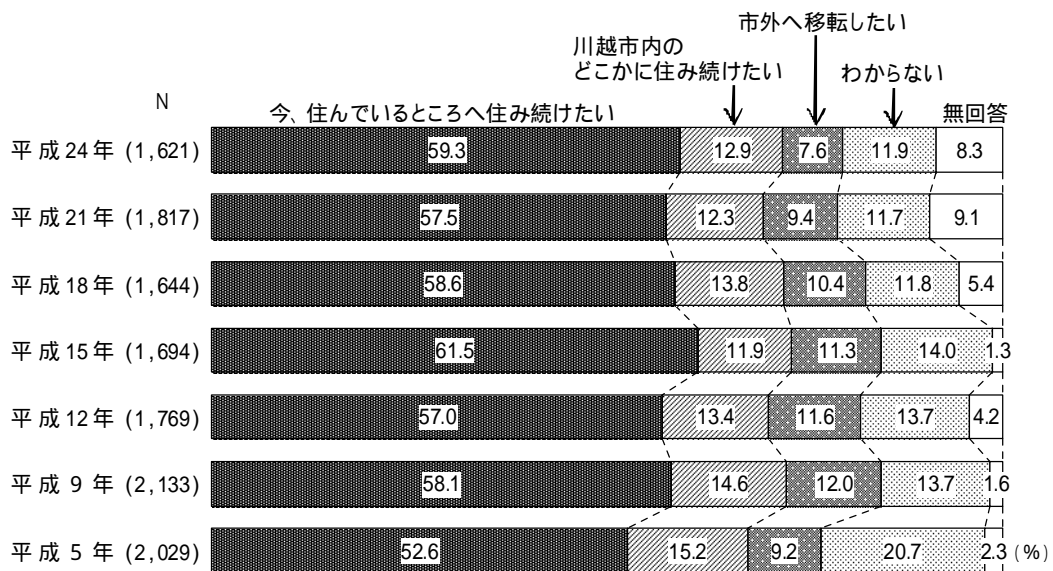
「今、住んでいるところへ住み続けたい」が59.3%



市への定住意向をたずねたところ、「今、住んでいるところへ住み続けたい」(59.3%)が最も多く、60%近くとなっている。「川越市内のどこかに住み続けたい」(12.9%)は10%を超え、「市外へ移転したい」(7.6%)は10%未満となっている。(図7 - 10 - 1)

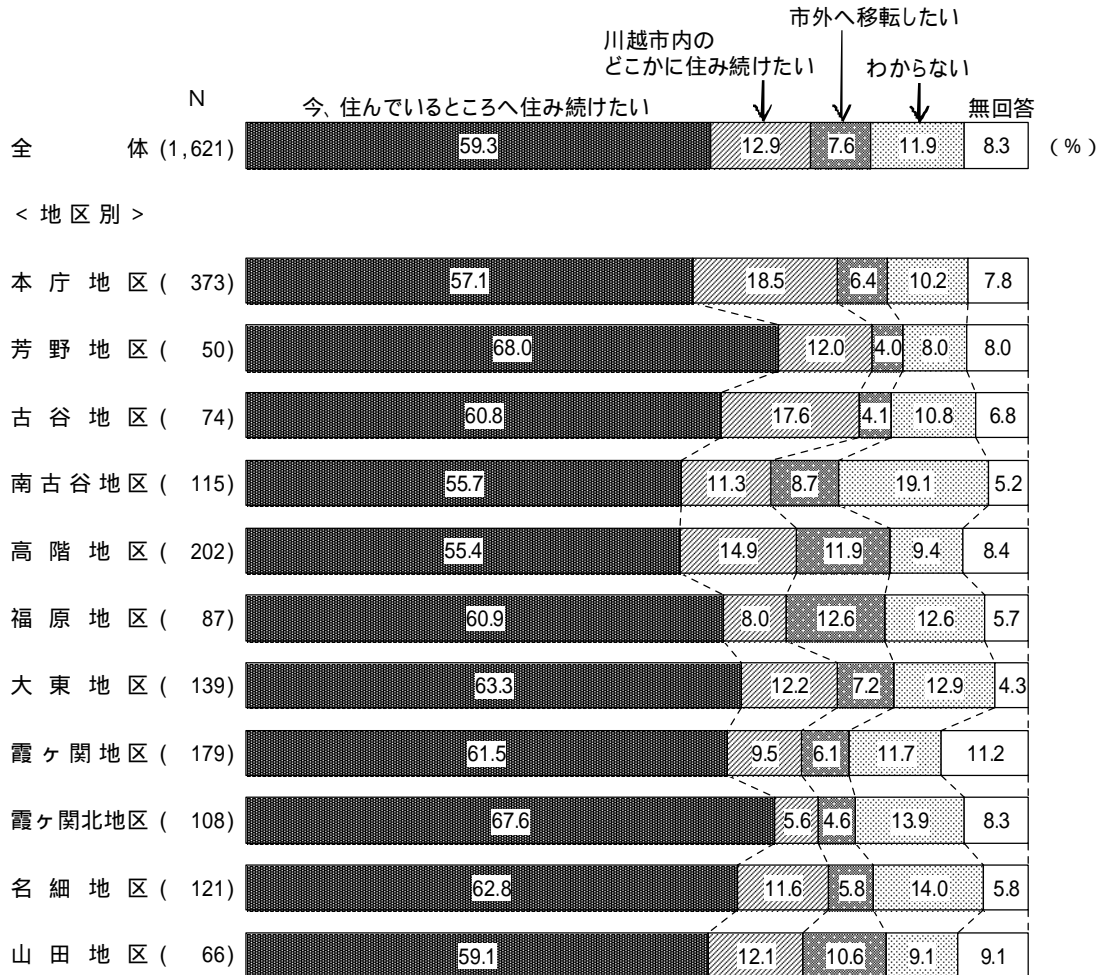
時系列でみると、「今、住んでいるところへ住み続けたい」は平成9年調査以降60%前後で推移しており、大きな傾向の変化はみられない。(図7 - 10 - 2)

図 7 - 10 - 2 時系列 市への定住意向



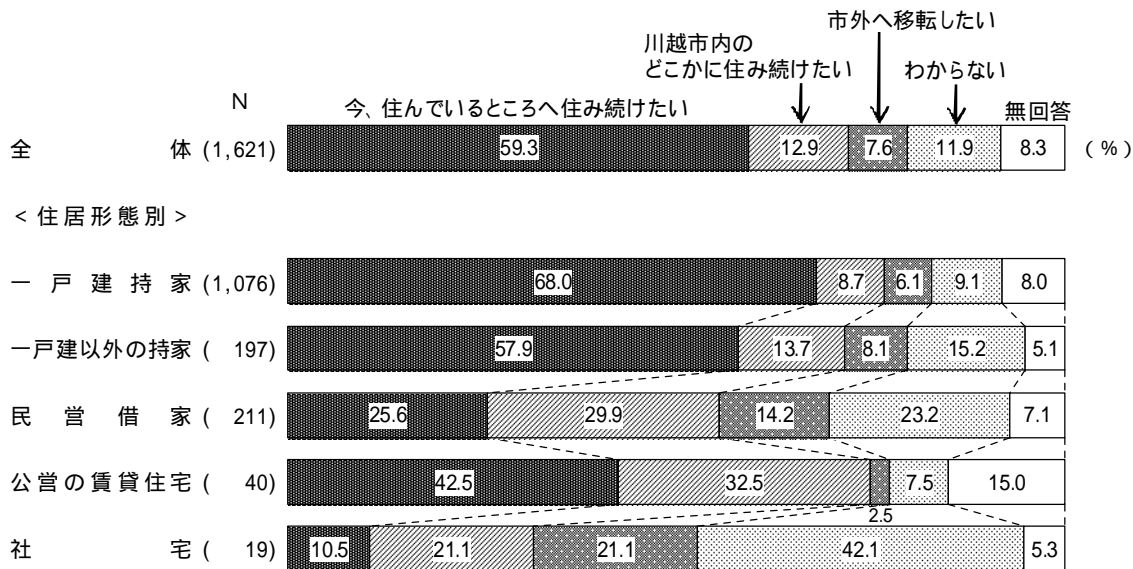
地区別にみると、「今、住んでいるところへ住み続けたい」はすべての地区で50%半ばを超えており、特に芳野地区と霞ヶ関北地区では70%近くとなっている。(図7-10-3)

図7-10-3 地区別 市への定住意向



住居形態別にみると、「今、住んでいるところへ住み続けたい」は一戸建持家が70%近くと多くなっている。「川越市内のどこかに住み続けたい」は公営の賃貸住宅が30%を超え、民営借家が30%近くとなっている。(図7-10-4)

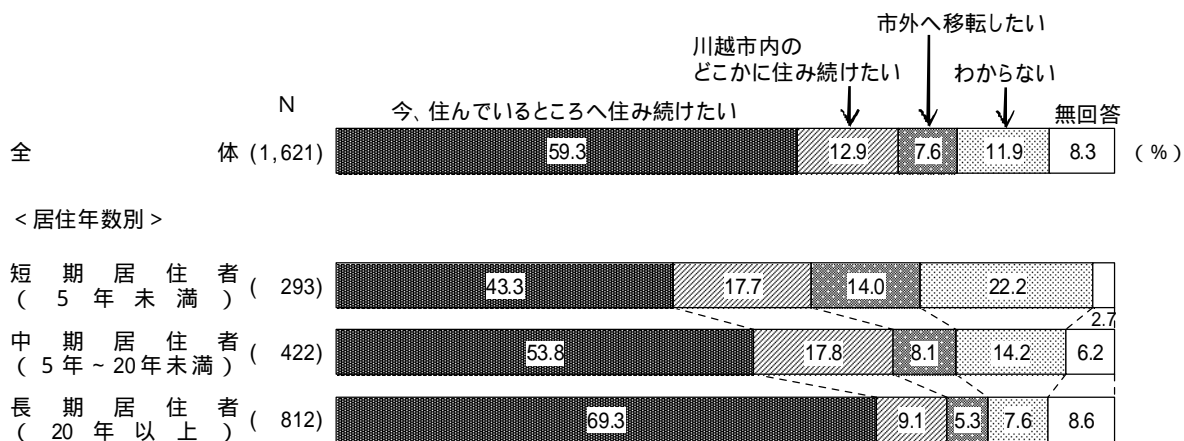
図7-10-4 住居形態別 市への定住意向



居住年数別にみると、居住年数の長い人ほど「今、住んでいるところへ住み続けたい」の割合が多く、長期居住者では70%近くとなっている。「川越市内のどこかに住み続けたい」は短期居住者と中期居住者が20%近くとなっており、「市外へ移転したい」は短期居住者が10%半ばとなっている。

(図7-10-5)

図7-10-5 居住年数別 市への定住意向



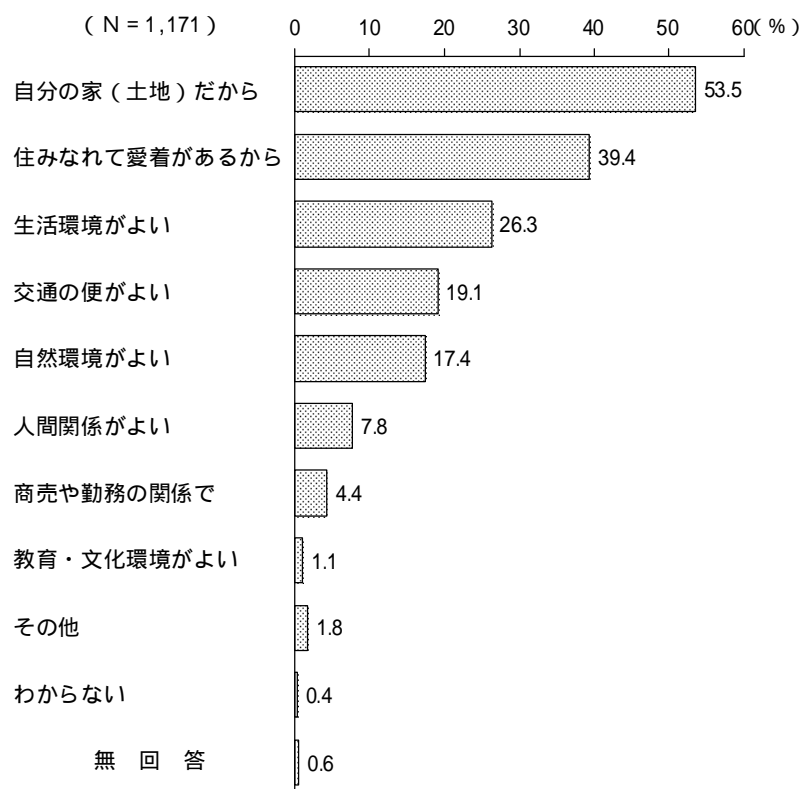
## 7 - 11 定住意向理由

「自分の家(土地)だから」が53.5%

問48 で「今、住んでいるところへ住み続けたい」と「川越市内のどこかに住み続けたい」と答えた方におたずねします。

問48 川越市に住み続けたいというのは、特にどういう理由からですか。次の中から2つ以内で選んでください。( は2つ以内)

図7 - 11 - 1



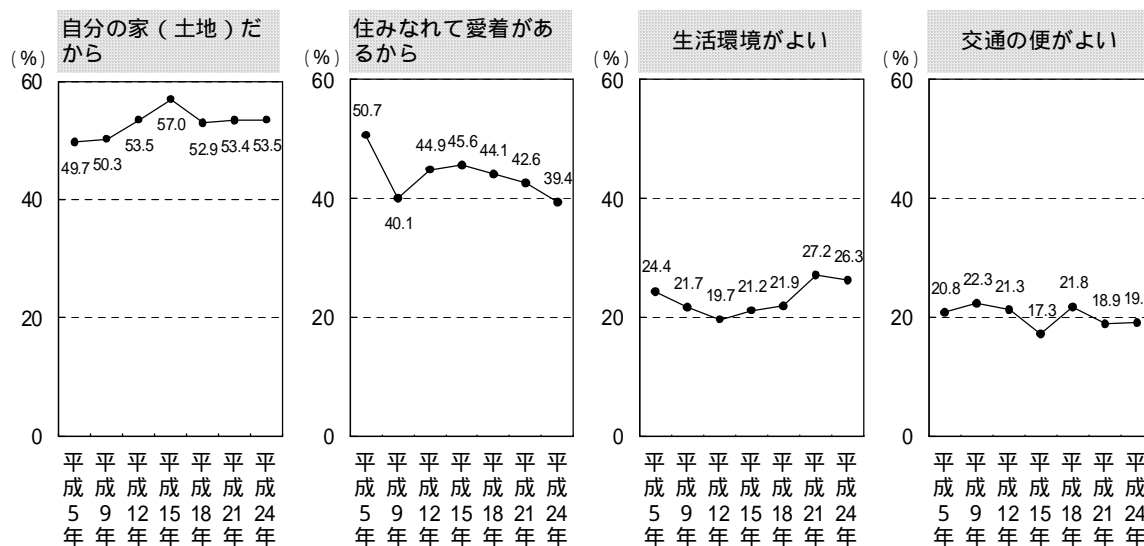
問48 で「今、住んでいるところへ住み続けたい」または「川越市内のどこかに住み続けたい」と答えた人(1,171人)に、その理由をたずねたところ、「自分の家(土地)だから」(53.5%)が最も多く、50%を超えている。以下、「住みなれて愛着があるから」(39.4%)、「生活環境がよい」(26.3%)、「交通の便がよい」(19.1%)、「自然環境がよい」(17.4%)などの順となっている。(図7 - 11 - 1)



上位4項目について時系列でみると、前回と同様に「自分の家（土地）だから」が最も多い理由となっている。また、「住みなれて愛着があるから」は前回調査と比べて3.2ポイント減少している。

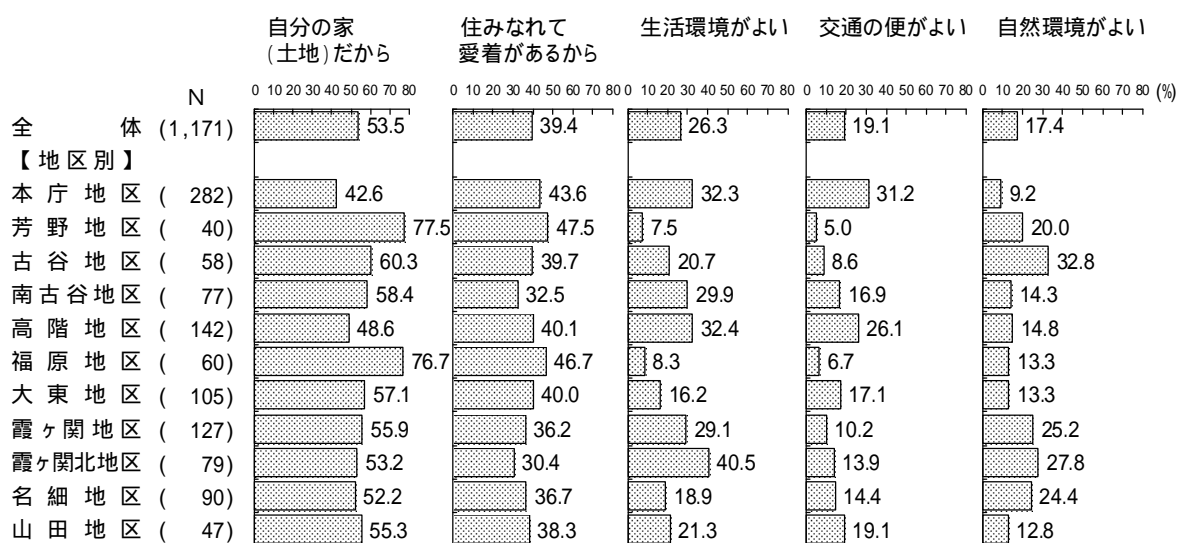
(図7-11-2)

図7-11-2 時系列 定住意向理由



上位5項目を地区別にみると、「自分の家(土地)だから」は芳野地区が80%近く、福原地区が70%半ばで多くなっている。「生活環境がよい」は霞ヶ関北地区が40%を超えて最も多く、「交通の便がよい」は本庁地区が30%を超えて多くなっている。「自然環境がよい」は古谷地区が30%を超えて多くなっている。(図7-11-3)

図7-11-3 地区別 定住意向理由



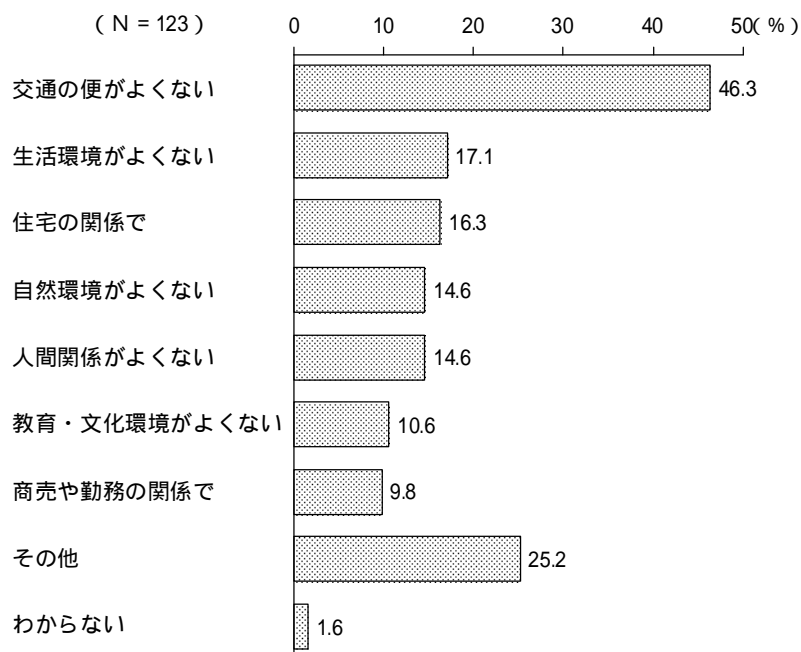
## 7 - 12 転出意向理由

「交通の便がよくない」が46.3%

問48 で「市外へ転出したい」と答えた方におたずねします。

問48 市外へ移りたいというのは、特にどういう理由からですか。次の中から2つ以内で選んでください。( は2つ以内)

図7 - 12 - 1



問48 で「市外へ移転したい」と答えた人(123人)に、その理由をたずねたところ、「交通の便がよくない」(46.3%)が最も多く、40%半ばとなっている。以下、「生活環境がよくない」(17.1%)、「住宅の関係で」(16.3%)、「自然環境がよくない」(14.6%)、「人間関係がよくない」(14.6%)などの順となっている。(図7 - 12 - 1)

上位4項目について時系列でみると、「交通の便がよくない」は前回調査と比べて5.7ポイント増加している。「住宅の関係で」は前回調査と比べて6.6ポイント、「生活環境がよくない」は前回調査と比べて4.7ポイント、それぞれ減少している。(図7-12-2)

図7-12-2 時系列 転出意向理由

